

富士見縄文推進事業

取組に至る背景・事業の目的

- 町の次世代を担う高校生にとつたアンケート調査によると「家族に、将来、富士見町に住み続けることをすすめられたことはあるか」の問いに 78.3%が「何も言われていない」との回答。また、「町に住み続けることをすすめられた」との回答が 8.5%だった。
- 近隣市町村と共に文化庁より、縄文に関わる日本遺産に認定される。同年「井戸尻考古館」から国宝級の土器など多数が東京国立博物館に展示される。また、“縄文女子”なる言葉も出るなど空前の縄文ブームとなる。更に当地域が日本の中心地（首都的ポジション）だったかもしれないロマンあふれる話がある。
- 商店街で地域コミュニティ機能向上を図る事を目的に、平成 28 年度から駅前商店街で実施している「ハロウィンイベント」が、その効力を発揮できていない。
- そこで、次世代を担う子どもたちへのアプローチを強く意識し、幼少期から郷土が誇れる“縄文時代”について、地域住民と一緒に体験し、学ぶことにより、郷土愛と一緒に育むことによる地域力アップを図る事。また、商店街での地域のコミュニティ機能を向上させる事を目的とした事業展開である。

事業内容

- 縄文子ども委員会 ふじみ の開催 2 回（小学生と店主の縄文勉強会 6 回開催）
 - ・子ども縄文レストラン 98 名参加
かまどづくり、火起こし、おかゆづくり、黒曜石による肉切り、縄文のはなし など
 - ・子ども縄文冬ものがたり 97 名参加
古代米でのもちつき、縄文のはなし など
- 縄文フードコンテスト
 - ・縄文時代の主食とされる、“くり”と“くるみ”を使ったフードを募集。24 品応募。
- 縄文ハロウィンイベント
 - ・プレイベント 162 名参加
ジャック・オー・ランタン及び縄文のお面作り
 - ・縄文ハロウィンイベント 約 500 名参加
縄文キッズエリア、仮装パレード、縄文フードコンテストの表彰及びレシピの公開、町内各縄文団体等の活動の発表。
- 縄文情報の受信及び発信、映像の集約 <https://www.jomon-fujimi.com/>
 - ・HP を開設し、当町の縄文情報の収集・発信。各イベントの映像集約。
- 地域住民の“縄文”への意識の高揚
 - ・町内各観光施設、駅前などに 600 本の“縄文のぼり旗”の設置。



【ジャック・オー・ランタン制作】

事業効果

- 幼少期から井戸尻の“縄文”についての体験学習により、当地の“縄文に関わる資源”に関心と、誇りを持つきっかけづくりが出来た。
- “縄文フード”として、「食における新しいコンテンツ」が誕生し、小学生考案の商品が商店にて商品化され、販売されている。
- 商店街で行っていた「ハロウィン」イベントを「縄文ハロウィン」に変更し、小学生と駅前商店主が“縄文”について、学ぶ時間を増やし、学んだ“縄文”の発表の場を商店街（縄文ハロウィンイベント時）にした事により、地域コミュニティ機能の向上が大きく前進した。
- 地域住民の方々が、HP から“縄文情報”をいつでも閲覧できると共に町内に“のぼり旗”を 600 本掲げた事により、常時“縄文”に対して意識の高揚が図られた。
- 以上により、地域に新たな郷土愛及び地域力アップのきっかけづくりが出来、大きく前進した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

最終的には、子どもたちが、大きくなり 1 度は大学進学などでこの地を離れても、戻って来るきっかけとなり、また、郷土愛を持ってこの地の事（縄文）を多くの方に話せるようになり、その話を聞いた方が、この地を 1 度は訪れたくなる。住みたくなる。事を目指して、今後も取組んでいく事業である。

【選定のポイント】

縄文文化の学習・体験や、多世代交流のイベントを通して郷土愛を育むとともに、商店街の地域コミュニティ機能の強化を図ることで地域力の向上が期待される。

団体名 富士見町商工会（富士見町）	事業タイプ ソフト事業	
連絡先 0266-62-2373	事業費	4, 1 1 5, 4 6 1 円
Mail fujimi@fujimi-ts.org	支援金額	3, 2 9 2, 0 0 0 円

東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの木材提供を契機に 天龍村の木材を PR しよう！

取組に至る背景・事業の目的

東京 2020 オリンピック・パラリンピックの選手村ビレッジプラザに天龍村の木材が使用されることになり、それを聞いた天龍中学校生徒が、自分たちも村の木材を利用してハンガーを 2020 本制作し、アスリートへ届けよう！という「ハンガープロジェクト」が始まった。

生徒数が少ないため、地域の住民にも制作協力を願い全村的なプロジェクトとなった。ドミニカ共和国の野球選手や至学館大学の女子レスリング選手に贈呈し、村の木材の PR や東京 2020 オリパラを盛り上げようと事業が進行している。

東京 2020 オリパラの開催が 1 年延期となってしまったが、天龍村産のヒノキが使用されることは村にとって大変誇りであり、これを機会に村産材が見直されることを期待している。

そこで、オリンピックに出場した方に講演をお願いし、村の木材が東京 2020 オリパラに利用されること、また、ハンガーの贈呈を改めて村民にアピールし、東京 2020 オリパラを盛り上げる気運を高め、かつ天龍村産の木材を PR し、地域の活性化につなげたい。

事業内容

1. ハンガー制作会

村民全体によるハンガー制作会を定期的に月 2 回程度実施し、令和 2 年 2 月 22 日に目標の 2020 本目のハンガーが完成

2. ハンガー贈呈

至学館大学レスリング部他 48 団体 1,670 本をアスリートへ贈呈

3. 講演会の開催

令和元年 11 月 16 日にバルセロナ五輪柔道金メダリストの古賀稔彦氏に講演をお願いした。



【古賀稔彦氏による講演】

事業効果

天龍村産のヒノキが東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の選手村ビレッジプラザに活用され、天龍中学校生徒によるハンガープロジェクトを実施。その思いを応援する多くの村民の協力により予定の 2020 本が完成。活動に賛同された著名人の方々に協力いただき、多くのアスリートへこの思いを届けることができた。金メダリストを招致することでオリンピック・パラリンピックがより身近なものとなり、かつ本村の木材が使用されることに村民一同が誇りを持つことにつながり、オリンピック・パラリンピック大会終了後にはその木材が返却されるので、それをレガシーとすることも計画されており、天龍産の木材の価値が再認識され、林業振興の一助となった。

少子高齢化であり全体的に活気のない雰囲気から今回の取り組みを契機に夢や希望・感動との出会いが享受された。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今回の東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの木材提供に端を発した、ハンガープロジェクトにより、小さな村の大きな挑戦となり、村民に夢と希望を与えることが出来た。

この意識の高揚そのままに、オリンピック・パラリンピック終了後に村へ帰って来る提供木材を、レガシーとして活用し、より一層村の木材活用を促進したい。



【ハンガープロジェクト 2020 本達成】

【選定のポイント】

世代を問わず多くの村民がハンガーの製作に携わるとともに、全日本学校関係緑化コンクール農林水産大臣賞、ボランティア・スピリット・アワード等、多数の受賞で大勢の人に認知された。本事業を契機に、村の木材の価値が再認識され、今後より一層木材の活用が促進されることが期待できる。

団体名 天龍村地域振興課
連絡先 0260-32-1023
メール d-sinko@vill-tenryu.jp

事業タイプ ソフト事業
事業費 749,560円
支援金額 562,000円

こまがね健康ステーション スマホアプリの開発と野菜を増やそう！イベントの開催

取組に至る背景・事業の目的

駒ヶ根市は、平成27年度から信州ACEプロジェクトの「A」のモデル市町村として「活動量計を使った健康づくり事業」を始めたが、市内の公共施設や医療機関、運動施設等に活動量計データをアップする健康ステーションを設置しても、開館時間が限られていたり、近くに健康ステーションがないため行くのが大変という声が寄せられていた。

スマートフォンやパソコンを使う高齢者も増えているため、自分のスマートフォン等から活動量計データをアップできるアプリ開発を行い、選択肢を拡大し、登録者の利便性を向上させ、市民の運動形成につなげたい。

事業内容

- 活動量計データアップ用のスマートフォンアプリの開発
登録促進
スマートフォン「おサイフケータイ機能」を活用したアプリの開発、アプリ紹介チラシの郵送
- 増やそう野菜！腸内環境改善パンフレット・レシピの作成
市内在住の野菜ソムリエの方に腸内環境改善と地元野菜をテーマに啓発パンフレットの作成・送付
- 運動・栄養イベント
「腸うれしい！善玉菌と食材の組み合わせ」の開催
ポールウォーキング体験会開催



【 運動・栄養イベント 】

事業効果

- 活動量計登録者、6か月以上の運動継続者が増加し、運動習慣の定着、健康・食への関心度が上がった。
- 活動量計登録者 H30.12時点 1,551人→R2.2時点 1,643人
6か月以上の運動継続者 H30.12時点 424人→R2.2時点 828人

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- スマートフォン自体をデータアップ端末にすることで、24時間いつでもデータをアップすることが可能になった。
- 運動・栄養イベントは、地区の方々が毎年企画して行っているウォーキングイベントに相乗りする形で開催された。地区の方々からは「一緒にやれたことが良かった。」「健康のことも学べて、イベントの内容がいつもより充実した。」といった声が聞かれ、好評だった。
- 歩くことへの関心（A）をきっかけに、自分の体のことを知ったり（C）、栄養のことも学ぶ（E）、そんなACE体験プログラムを、これからも企画していきたい。

【選定のポイント】

信州ACEプロジェクトに沿ったスマートフォンアプリを開発し、その活用促進イベントを行ったことで、運動継続をする人の増加に繋がった。今後も利用者が増加し、事業の継続・発展が期待される。

団体名	駒ヶ根市	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	地域保健課	事業費	1,200,770円
	0265-83-2111	支援金額	842,000円

高齢者向け地域支え合い事業

取組に至る背景・事業の目的

地域包括ケアにおける「地域支え合い体制づくり」の一環として、平成 29 年 4 月に高齢者の方が気軽に立ち寄ることができる常設サロンとして、「シルバーカフェ安曇野」を開設。高齢者に対する地域での日常的な支え合い体制を構築し、健康啓発メニューの提供や生活充実講座の開催等を行うことで、高齢者が生き生きと充実した生活を送ることができる支援を実施する。

事業内容

- ・ 高齢者の生活充実講座、認知症予防講座等の開催
(健康教室、絵手紙、オカリナ、フォークソング、手芸、お箏、童謡唱歌、麻雀、おやつ作り、美容講座、手話歌、スマホ Q&A、気軽に終活等)
- ・ 音楽イベント「生き生きうたごえカフェ in 安曇野」の開催
(出演者の演奏による参加型合唱イベント)



【生き生きうたごえカフェ】

事業効果

- ・ 利用者は、毎月のイベントを楽しみに繰り返し通って来るようになり、友達もできて気軽に立ち寄れる場所にする事ができた。
- ・ 各種の健康啓発メニューや生活充実講座の提供により、利用者は、歌ったり、作品作りをすることで、脳を活性化させ、認知症の予防につなげることができた。
- ・ ストレッチや健康教室を提供することで、利用者からは、「つまづかなくなった」、「正座ができるようになった」等の声が聞かれた。
- ・ カフェで仲良くなった者同士で集まったり、ボランティア活動に出かける等、利用者の積極的な社会参加が見られた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・ 元気づくり支援金を活用することで、チラシの作成・配布による周知・啓発や各種イベント講座の充実を図ることができた。
- ・ 運営資金の確保に苦慮する中で、イベント講座の講師の方にはボランティアでの協力を依頼する等、従来のシルバーカフェ事業を継続し、利用者の心と体の健康維持に役立つ居場所としていく。
- ・ 安曇野市や報道各社と連携しながら広報活動を展開していく。

【選定のポイント】
 高齢者の健康増進や居場所づくりにあたり、内容を工夫したイベント等の継続により、利用者の増加や交流、事業の認知が向上した。行政機関との連携等、事業の充実や発展に期待したい。

団体名	シルバーカフェ安曇野 (安曇野市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0263-77-7007	事業費	1,358,972円
ホームページ		支援金額	1,087,000円
http://www.silvercafe.jpn.com/cafe-azumino.html			

『さかみちラプソディ』製作・上映

取組に至る背景・事業の目的

小諸市で撮影をして、小諸市民を中心に長野県民の出演する地域密着型映画を製作・上映することで、郷土愛の育み、郷土の魅力発信、世代間・地域間交流及び、地域の活性化を図る。

事業内容

長野県小諸市で100%ロケを行い、小諸市内また周辺市町村からメインキャストを起用する地域密着型映画『さかみちラプソディ』(60分)を製作し、佐久地域2会場で上映した。

【上映実績】

- 佐久アムシネマ (佐久市)
令和元年9月28日(土)～10月11日(金)
11日金曜以外1日2回上映
- 市民交流センター (小諸市)
令和元年10月6日(日)
令和2年年1月12日(土)～15日(水)
1日1回上映



【キャスト舞台挨拶の様子】

事業効果

- 想定していた動員数(500名)を大幅に超え、1,434人に来場いただいた。
- 佐久地域から映画製作にコアで関わるメインキャストを12名起用し、エキストラ出演でも約200名にご協力いただき、小諸市民の方々の世代間交流を生み出すことができた。また、映画製作にあたり、地元ミュージシャンやダンススクールの皆様に積極的に参加をお願いし、文化交流を図ることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 多くの市民に「まち映画」というジャンルを理解していただくことに苦労した。市民一人一人が映画を創作する一員になれることを根気強く伝えてきた。
- 『さかみちラプソディ』の製作実績を掲げ、代表田中によるシンポジウム・講演を行う。このまち映画がどんな過程で製作されたのか、映画製作が街にもたらした効果などを来場者に伝え、市内文化活動が新規で生まれていくことを目指す。
- 長野県内の映画祭を中心に積極的に出品を考えている。
- 市外上映機会を継続してつくることで市内への関心を高めていく。

【選定のポイント】

地域密着型の映画製作・上映を通じて、小諸市民の世代間交流等を図った。また、反響が多かったことから追加上映を行い、来場者数が予定の約3倍になるなど、地域活性化の推進に寄与した。今後も、映画制作に関連したイベントの開催や映画の放映等により、小諸市の魅力発信等の取組が期待される。

団体名	小諸まち映画製作委員会 (小諸市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	090-1432-5003	事業費	3,413,268円
メールアドレス	sakamichi.rhapsody@gmail.com	支援金額	1,567,000円

佐久地域の高校生とご当地グルメが連携「佐久高校生ラーメン甲子園」事業

取組に至る背景・事業の目的

佐久高校生ラーメン甲子園の開催により、高校生に佐久地域の食材・食文化の知を継承し、同時に起業観・職業観を育成することを目的とする。

事業内容

佐久地域の高校生と安養寺ら〜めん会員が、コラボレーションで開発した、地域食材を活用した創作ラーメンの競演販売を行い、参加者の投票により順位を決定する「佐久高校生ラーメン甲子園」を開催。

○開催日：令和元年10月5日（土）・6日（日）

○場所：駒場公園（佐久市猿久保55番地）

○参加校：佐久地域の高等学校 5校6チーム（高校生38名）



【当日の会場の様子】

順位等	高校	ラーメン	サポート店
優勝	佐久長聖高校	鶏ふる塩豚骨ラーメン	麺匠 文蔵
準優勝	小諸商業高校	小商のコショウラーメン	かるねや
3位	野沢南高校	鯉に恋する白湯ラーメン	麺匠 佐蔵
4位	佐久平総合技術高校浅間キャンパス	浅間ホワイトラーメン	食材工房 光志亭
5位	岩村田高校	アルティメット岩ちゃんラーメン	とんちき麺
6位	佐久平総合技術高校臼田キャンパス	特製びーふしちゅう麺	らーめん麺三

事業効果

○佐久商工会議所・佐久市主催の「ぞっこん！さく市」は、2日間で約53,000人が来場し、ラーメン甲子園の各校ブースには、一般参加者のほか、参加高校生の家族、友達、教職員や高校の卒業生などが一日中長蛇の列をつくり、佐久高校生ラーメン甲子園は大盛況であった。

○ラーメン販売数合計1,803杯（前年度1,062杯、前年度比169.7%）、総投票数1,342票

○ラーメンづくりに参加した高校生の中には、将来調理師や飲食業を志す学生もおり、未来の起業家・就業者が佐久の産業の一端を体験して、将来の方向性を決める動機づけの機会となった。

○マスコミでも多く取り上げられ、地域食材や食文化の魅力を発信するとともに、地域や参加校の活性化にも繋がった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

安養寺ら〜めん会の会員以外のラーメン店の協力も得て、今後も参加高校数を増やすなど佐久地域の食材・食文化の継承を行っていく。

【選定のポイント】

地元の高校生が地域食材を活用したラーメンをテーマに開発からイベントでの出店販売までを体験する事業の実施により、高校生の職業観の育成とともに、地域食材の魅力の発信に寄与した。前回より参加校や販売数が増加するなど事業の発展が見られ、今後も、学生の参画による地域の活性化に向けた取組が期待される。

団体名	信州佐久安養寺ら〜めん会（佐久市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	佐久市猿久保805-1	事業費	1,612,140円
ホームページ	https://anyouji-ramen.com	支援金額	1,278,000円

地域ぐるみで家族への想いを共に感じ考える活動事業

取組に至る背景・事業の目的

○地域や家族のつながりが強い地域（東御市北御牧地区）から家族と地域の在り方を共に考える輪を広げるための組織としてスタートした。
 ○東御市全体に対象範囲を広げ、子育てや生き方に関する互いの喜びや悩みを共有できる場をより多く設けられることを目指して、1年目は「地域ぐるみで家族への想いを共に感じ考える観劇&ワークショップ事業」を、2年目は、朗読劇「家族草子」の観劇、ワークショップに加え自主公演に向けた取組を進めてきた。

事業内容

○持続可能な取組とするため、地域住民を対象とした生涯学習講座の1つとして「家族草子」朗読講座を定例的に実施。専門講師から指導を受けることにより、家族の在り方や交流、地域づくりを考える機会、さらにはそれらの大切さを伝えるスキルを有する人材を養成した。

- ・2019年5月～2020年2月まで原則毎月第2火曜日2時間
- ・専門講師 家族草子メンバー 2名
- ・対象人員 関心のある地域住民 14名
- ・受講費用 1,500円（一人当たり年間）

○家族の大切さを地域ぐるみで考え、さらに家族間交流と地域のつながりの醸成を図るため、一流朗読劇である「家族草子」の公演を実施した。

- ・2019年11月24日 北御牧中学校音楽ホール
- ・参加人数 午後の部 296名 夜の部 225名 計 521名
- ・参加費用 1,000円



【生涯学習講座】



【家族草子講演後記念撮影】

事業効果

○「家族のつながり」というテーマは性別や年代を問わず、多くの人に考えるきっかけを提供することができ、3年間の取組みを通じて、家族を題材に世代・地域を越えた交流を進めることができた。

○市の生涯学習講座の1つとして「家族草子」朗読講座を開催したことで、地域づくりの核となる人材を育成し、持続可能な事業として確立することができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

最も工夫できた点は、「家族草子」という題材を中心に人の輪が生み出したこと。実行団体関係者、招聘した「家族草子」のプロの方々、ワークショップ参加者、公演観劇者等、立場は違っても、想いを共感できる時間が持てたことで取組の充実につながった。苦労し、課題と感じたのは、多くの方が公演を観劇するための日時の設定。今後も地元の自主活動を継続するとともに、実現可能な規模でプロを招く機会も続けたい。

【選定のポイント】

・3年目の事業として、これまでの活動が今後も地域に根付くよう生涯学習講座を開催して、人材育成を行った。またプロによる朗読劇の観覧者も合わせると、3年間で当事業に関わった市民等は1,800人となり、家族の大切さを地域ぐるみで考え、家族間交流と地域のつながりの醸成に取り組むことができた。

団体名 東御ひだまり家族村（東御市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 080-3252-8571（事務局 岡田）	事業費	2,936,639円
メールアドレス okap@pedam.org	支援金額	2,301,000円

小泉山体験の森 整備事業

取組に至る背景・事業の目的

小泉山体験の森創造委員会では、平成14年度から身近な里山である「小泉山（こずみやま）」の荒れていた登山道等整備を行い、平成17年度からは魅力ある体験の森にするため、子どもたちを中心とした自然体験学習のサポート活動など、本格的な活用及び維持管理事業に努めてきた。多くの方にこの体験の森を安全に安心して活用していただくためには、登山口をはじめ、遊歩道や山頂部の整備は欠かすことができない。

事業内容

特に近年は、雨水等による登山道や木製階段の傷み、看板の老朽化が進んでいたため、平成29年度から3か年計画で「地域発元気づくり支援金」を活用し、駐車場看板6基、案内看板10基、由来看板14基、看板37基及び標柱52基のリニューアルをすることで、利用者に安全に気持ちよく利用していただくとともに、看板設置作業には親子参加を始め地域の方に参加していただき、身近な里山を守っていく意思確認をする機会となるよう企画した。



事業効果

- 「看板がきれいになって見やすくなった」という声が聞かれた。
- 歩きやすい登山道と見やすい看板の整備により、より利用者が増えた。
- 水切り工事により雨水による登山道の傷みが無くなったので、足元を気にせず登りやすくなった。
- 創造委員以外の保育園児や小学生、地域住民に整備に参加してもらったことで、幅広い層に小泉山に興味を持ってもらうことができた。
- 「地域発元気づくり支援金」を3年間活用する中で、看板整備の活動に公民館分館の行事として取り組みを企画した区、オオムラサキの保護活動や観察に協力し続けている学校やクラス、小泉山を登山で活用する保育園が増えたことなど、活動が多方面へ広がった。

【看板設置の様子】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

小泉山の存在は知っているが実際に登ったことのない地域の方や子どもたち、また小泉山体験の森創造委員会の活動について知らなかった方に参加してもらった企画（親子参加・公民館行事での参加など）を、小泉山の麓にある玉川地区と豊平地区の文化祭でパネル展示で報告したところ、例年以上に多くの親子連れが足を止め、会話をしている方や質問をする方、パンフレットを手にする姿などが見受けられ手ごたえを感じることができ効果的な情報発信ができた。

小泉山で体験したことがこの先も子どもたちの心に残るよう、地域住民や学校関係者、行政と協働して引き続き小泉山の整備やオオムラサキの保護活動など様々な活動、イベントを主催していきたい。

【選定のポイント】

地域のシンボルである小泉山を地域住民と協働で整備し、登山やオオムラサキの保護活動など、公民館や学校の行事に活用できる場を作ることを通じて、地域に広がる形での世代間交流の促進、環境整備が期待される。

団体名	小泉山体験の森創造委員会（茅野市）	事業タイプ	ハード事業
連絡先	0266-72-2101（内線635）	事業費	2,532,060円
HP	http://www.city.chino.lg.jp/	支援金額	1,688,000円
Mail	shogaigakushu@city.chino.lg.jp		

平谷村型「信州こどもカフェ」推進事業

取組に至る背景・事業の目的

平谷村では、不登校傾向や週末に自宅にこもりがちな子どもが増え、友だちや地域住民との交流など人との関わりが希薄になり、森遊びや多種多様な体験活動が減少傾向にあった。人口減少や両親の共働き、母子家庭など子どもを取り巻く環境もその要因の一つと考えられる。このような現状の中で子ども達の心のケアや健全な成長を促進するためにも、子どもたちが孤立することなく安心して居られる場所や友だちと遊べる環境、子育て世代の家庭の支援となる場所を作ることが早急の課題となっていた。

そこで、平谷村では、平谷型「信州こどもカフェ」（ひらひら平谷）を設置し、“一場所多役”のこどもの居場所づくりを目的として事業を推進してきた。自分のままを受け入れてくれる人たちがいるという安心感ややりがいを感じられる活動ができるような居場所づくりを、学校、地域、行政が連携し進めてきた。

事業内容

1. 学習支援活動の充実
宿題や自主学習の支援、基礎学力の定着や躓きの解消を図った。
2. なんでも相談室（悩みの相談）
ゲームや気になる話題など何気ない会話を大切に子どもたちの声を聞くことに重点を置いて実施した。
3. イベントと遊びの広場
自然体験や工作、国際交流や郷土食作り、ICT 事業など多種多様な活動に地元の方々と一緒に取り組んだ。
4. 春夏冬の長期休暇一時預かり
中長期休暇中の子どもを一時的に預かり、保護者の負担軽減につながるお手伝いを行った。
5. ひらひら平谷の周知活動
地域の方への声かけや地域おこし新聞の発行、各メディアへの情報発信で周知活動を推進した。



【手作り滑り台で遊ぶ日常】

事業効果

- ①子どもにとって心の拠り所となり、安心して伸び伸びと成長できる環境を整備できるよう取り組んだ。その結果、開所後一日平均10人前後の来所者数があり、放課後元気にひらひら平谷で友だちと遊ぶ姿が多く見られた。村内の不登校児についても、開所以降、学校の出席率に改善傾向が見られるといった好影響が見られた。
- ②学習支援活動について、タブレットの導入など先進的な学習内容を提供できたことで、子どもが積極的に学ぼうとする姿勢が見られた。体験活動ができるイベントの実施は、参加率も高く、村民と交流できる場となったことも良かった。月平均2回以上のイベントを実施した。
- ③なんでも相談室（悩みの相談）を通して、育児に奔走する保護者の方々がリフレッシュできる場を提供できた。春夏冬の長期休暇一時預かりについても、保護者の方々から好評をいただくことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

「外遊びをするようになった」「いろんな体験活動をしてくれありがたい」「笑顔がたくさん見られる」「外で元気に遊ぶ姿がみられる」「子どもの元気な声が聞けてうれしい」「友達と遊んだ話をしてくれる」

保護者の方々や地域住民、学校の先生方からは好影響が見られるとのご意見を多くいただいた。一方で、地域住民との関わりといった面では、まだ成功例と言えるイベントも数回しかなく、今後こうした活動を増やしていくことで、より多くの方々に生活の一部としてひらひら平谷を利用していただけることを目指していきたい。子ども、村民みんなの居場所となるよう今後も発展させていきたい。

【選定のポイント】

子供たちや保護者にとって心の拠り所となる居場所ができた。今後は、様々な世代の地域住民が交流する場としても機能し、みんなの居場所となっていくことが期待される。

団体名 平谷村教育委員会
連絡先 0265-48-2211
メール kyoui@vill.hiraya.lg.jp

事業タイプ ソフト・ハード事業
事業費 2,637,524円
支援金額 2,017,000円

祭り文化景観形成事業

取組に至る背景・事業の目的

- 日義地域は、木曾義仲旗挙げの里として、木曾義仲にまつわる催事が多くあり、「らっぽしよ行列」及び「長持ち行列」等の祭事が伝統文化として地域の活力となっている。
当該地区では、少子高齢社会における後継者育成や伝統文化の継承等が地域の課題となっており、こうした祭事をより魅力あるものにして後世へ継承していく必要がある。しかし、祭事の会場となる中山道宮ノ越宿や原野地区の街道沿いは、祭事の際に明かりがない箇所や暗い箇所もあることから、行列の歩行に関して発電機を使用した投光器での明り取りにより照明の確保を行っていた。
- 風情ある祭り景観を創造する必要性から、提灯等の工夫による地域住民の参画と帰省客の増加及び後継者の育成等による魅力ある伝統文化の継承と、木曾義仲の里づくりとしての一翼を担うことを目的とした。

事業内容

- 和紙提灯、弓張提灯を設置し、長持ち行列の通行の明り取りや祭り風情を高めた。
8月14日の木曾義仲旗挙げ祭り、9月8日南宮神社例大祭、11月24日原野八幡宮秋祭りに合わせて、宮ノ越宿本陣に和紙提灯、原野宿、宮ノ越宿の中山道街道の必要箇所（暗所）に既設のポール等を活用して弓張提灯200個を設置。
- 提灯の図柄は、木曾義仲・巴御前の物語をモチーフにした図柄で町内在住の画家にデザイン作画を依頼して作成した。



【宮ノ越本陣の和紙提灯】



【制作した弓張提灯】

事業効果

- 和紙提灯と弓張提灯の設置により、木曾義仲公にまつわる催事をより引き立てられた。また、賑やかで風情ある中山道の街道景観の形成と魅力ある明るい祭事の催行により、前年度と比べて帰省客や観光客などの催事入込者数19%の増加に繋がった。
- 次世代を担う地域の小中学生や高校生の参画、地域住民の盛り上げにより、「らっぽしよ行列」「長持ち行列」「武者行列」など伝統文化の後継者育成と伝承が図られた。
- 日義地域の中山道街道筋における祭り景観、街道景観の意識向上と住民協働による祭事運営や住民の居場所づくりが図られた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 武将木曾義仲の旗挙げの地としてふさわしい提灯の図柄選定に際し、協議会運営委員会でのコンセンサスを得るのに苦労したが、今後は、地域住民の協働参画をはじめ、更なる後継者育成に努め、今後も引き続き歴史文化の伝承のため祭り催事には提灯を掲げ、祭り景観や日本遺産の中山道宿場街道の景観を維持していく。
- 木曾義仲・巴御前を主にしたNHK大河ドラマ化誘致に向けて今後も継続的に陳情や誘致活動を木曾義仲・巴広域連携推進会議他関係機関、全国のゆかりの地と共に積極的に行っていく。

【選定のポイント】

地域住民や次世代を担う小中高校生の参画により、木曾義仲公ゆかりの地として、地域の歴史文化の伝承と後継者育成が図られた。また、祭りの活性化による地域の結びつきの強化、観光振興等様々な面での効果が認められた。今後も地域の伝統継承に繋がる取組の継続を期待する。

団体名	木曾町日義地域自治協議会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0264-26-2301	事業費	2,301,912円
	木曾町役場日義支所内事務局	支援金額	1,725,000円

木曾地域における学びあい（合い・会い）創出事業

取組に至る背景・事業の目的

- 少子高齢化がすすむ地域において、失われつつある地域固有の文化や地域資源がある。より多様な視点を取り入れていくためにも、地域内外の人が交流しながら地域資源やその活かし方について学ぶ場が必要である。また、新しい視点を取り入れていくためには、地域資源を再評価し伝えていくための学びの機会を創出することが必要である。木曾地域にある学びや体験プログラムを、施設や地域などを横断的に確認できるものがなく、プログラムが開催されても情報発信に限界があるため、参加者層に広がりがない。
- 今回、受講者が次の活動や学びの場をつくっていけるようなプログラムを提供し、主体性を持った「学ぶ」意欲のある人たちが交流しながら学ぶことで、多様な視点のある学びの場を形成することができ、観光でも体験でもない「学び」による交流を促す。また、木曾地域に存在している学びの場を繋げて Web 媒体で情報発信をすることで、「学び」のプログラムによりアクセスしやすい環境を作り、魅力的な講師を呼ぶことで、地域内外への「木曾での学び」の効果的な訴求を図る。

事業内容

- 木曾地域にて、中山間地域でのこれからの生き方や働き方を考える学びのプログラムを実施し、地域内外の人が交流することで、多様な視点を地域に取り入れた。
- 地域内外の人が交流する新しい学びの場として学び講座「さとくらしカレッジ木曾」を全8回実施。
- 木曾地域で開催される学びの情報を繋げる Web サイトである「fumfum」を作成し、情報発信を行った。



【第1回さとくらしカレッジ木曾の様子】

事業効果

- 中山間地域での生き方を考える「さとくらしカレッジ木曾」では、講座全8回へ合計118人が参加。
- 今回の講座から派生したイベントが7回実施された。
- 講座イベントボランティアスタッフとして、地域内外からイベントに共感してくれた13人の協力を得られた。
- Webサイト「fumfum」作成を通して、他施設のイベント主催者や地域のPR冊子作成チームとの連携に繋がった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 地域内外の講師を招いた学びのイベントを継続的に実施すると同時に、より実践的で長期的な学びのプログラムを実施する。また、都市部や地域外からの参加者への周知のために、木曾地域からのオンラインイベント等も実施するとともに、イベント開催の記事投稿などをおこなうことで、イベント認知率をあげていく。

【選定のポイント】

学び講座の開催や、そこから派生したイベントが7回実施されるなど、地域内外の活動者の人達がつながる場を創出した。また、地域の学びを繋げる Web サイトを開設し、地域住民が主体となって学びの情報発信を行っていく基盤づくりを行うなど交流促進に効果が認められる。引き続き地域住民の参加による講座やイベントの開催が期待される。

団体名 木曾マナビネットワーク（木曾町）	事業タイプ	ソフト事業
ホームページ http://fumfum-kiso.com/	事業費	1,109,460円
メールアドレス info@fumfum-kiso.com	支援金額	832,000円

“音楽の風を白馬に” ロビーコンサート推進事業

取組に至る背景・事業の目的

若手演奏家の育成を目的とした「NAGANO 国際音楽祭 in 白馬」の開催を契機に、生演奏の魅力が白馬村民に認識され、白馬村においてクラシック音楽の魅力に触れる機会の提供を求める気運が高まっていた。このため、白馬村役場ロビーや JR 白馬駅などにおいてロビーコンサートを開催し、多くの住民に音楽や芸術に親しんでもらうことを目指す。

事業内容

○ロビーコンサートの開催（5月～11月）
白馬村、JR、地域住民、国内外演奏者等と連携・協働し、ロビーコンサートを開催してクラシック音楽の魅力を伝えた。

【ロビーコンサートの実施状況】

白馬村役場ロビー	7回
JR白馬駅	1回
JRふるさとビュー	1回
神城メディア	1回
計	10回



【ロビーコンサートの演奏風景】

事業効果

○生の演奏に触れる機会の創出

国際音楽祭やロビーコンサートにより、生の演奏に直に触れる機会と国内外の演奏者との交流の場を提供し、小中高生を含む多くの村民にとって貴重な経験となった。
(参加者数：延べ920人（内小中高生200人）)

○音楽を通じた白馬村の新たな魅力づくり

音楽に親しむ白馬村として、グリーン期の新たな魅力を発信することができた。
JR 東日本長野支社からも好評を得ており、将来の誘客のコンテンツとして期待できる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・白馬村、白馬村観光局、JR 東日本白馬駅、JR 東日本長野支社、神城メディア（老人施設）、『NAGANO 国際音楽祭』実行委員会等の関係者との連携、協働を持続させ、白馬村内のみならずクラシック音楽の魅力を広域に伝える活動を展開する。
- ・JR 東日本長野支社では、好評だったリゾートビューふるさと車内演奏会を規模を拡大して行いたいとの意向である。
- ・応援してくれるサポーターを増やし、活動支援と財源支援の両面からより積極的なサポートが得られ事業が自立できるようにしていく。

【選定のポイント】

「NAGANO 国際音楽祭 in 白馬」に加え、白馬村役場や JR 列車内でのロビーコンサートにより、白馬村民を中心に生の演奏に直に触れる機会を提供した。

白馬村や JR 等と連携し、グリーン期の新たな魅力として期待できる。

団体名	Hakuba Music Support Association (白馬村)	事業タイプ	ソフト
連絡先	代表 山口 郁夫	事業費	597,979円
		支援金額	427,000円

懐かしくて新しい「紙芝居のさと」づくりⅢ

取組に至る背景・事業の目的

紙芝居の盛んな須坂市にありながら、須坂市立博物館に収蔵されている昭和の貴重な紙芝居のことは知られていなかった。当市出身の街頭紙芝居最後の絵元・塩崎源一郎が寄贈したそれらの紙芝居を複製し、市民が日常的に「使える文化財」にすることで、郷土の先人・塩崎の偉業を伝え、ふるさとの特色ある芸術活動として定着させていく。

事業内容

「紙芝居のさと」信州須坂を誇りに思う市民を育てていくため、須坂市出身の街頭紙芝居最後の絵元である塩崎源一郎の作品レプリカ（増刷分 500 枚）を市民と共同で作成し、街頭紙芝居自転車を使用して様々な場所で上演、育成したシニアの演じ手の活躍の場を多く創出し、文化の伝承や生きがいがづくりも担う。他に、市民講座の開催、関連する講演会や信州須坂紙芝居のさとまつりを開催する事業。



【大学生と連携した紙芝居復元】

事業効果

- 平成29年度から、3年の歳月をかけ、須坂市立博物館の協力と三邑会の監修のもと、昭和の貴重な紙芝居700枚を複製。これまでに完成させたレプリカを塩崎の弟子と市民が、130名の市民の前で披露した。
- 複製された紙芝居を観ることで塩崎源一郎の存在を知った市民が、紙芝居の盛んな郷土との不思議な縁を感じ、ふるさととは切っても切れないたいせつな文化だと気づきを得ることが出来た。
- レプリカ作成を機に長野県内で活動する紙芝居団体・個人や市民が集まり、ネットワークができた。塩崎の弟子の街頭紙芝居師もたびたび出演するなど、「須坂に行くと紙芝居が見られる」等、須坂が「紙芝居のさと」であることが定着し、集客につながるようになった。
- 紙芝居を使って地域で活動したい初心者（特に男性シニア）向けに、「信州須坂とことん紙芝居塾」を開講。実技講習に加えて、地域デビューまでをとことんサポートした。
- 小・中学校の「信州型コミュニティスクール」や、高等学校の「信州学」などに紙芝居を取り入れるところが増え、世代を超えた交流が盛んに行われるようになった。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- 今後も、紙芝居文化を醸成し演じ手を育成する事業、特に世代を超えた交流に積極的に取り組んでいく。特に、今の時代のコンテンツに長けた大学生の知恵を借り、シニア世代には持ち合わせない新たな発想と技術で、完成させたレプリカを、広く発信し、信州須坂の文化芸術として長く残していきたい。
- 須坂市社会福祉協議会や長野県長寿社会開発センター等と連携し、シニア世代の活躍や、介護福祉施設への派遣を行えるようシステムを構築していく。ひきつづき昭和の貴重な紙芝居の複製と普及に努め、紙芝居をツールに、明るくあたたかいまちをつくらしていきたい。

【選定のポイント】

500枚ものレプリカを、地域の方と大学生が協働し「使える文化財」として復活させるとともに、シニア世代を街頭紙芝居の演じ手として育成し、シニア世代の新たな生きがいとなったほか、紙芝居を通じて地元の子供たちとの世代間交流が生まれるなど、信州須坂の紙芝居文化の醸成が図られた。

団体名	信州須坂紙芝居のさとプロジェクト（須坂市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	026（245）0784 市立須坂図書館	事業費	2,921,480円
		支援金額	2,337,000円

子どもの健全育成を目的とした「命の授業」事業

取組に至る背景・事業の目的

リニアモーターカーが来ることでダンプカーの往来が増え、子供たちに自分の命を守ると共に、人の命を守ることの大切さも伝える必要があった。

ボランティアで①交通安全活動、②子供たちの学習支援、③有害鳥獣問題を通して命の大切さを伝える「命の授業」をしていることもあり、それぞれバラバラで活動するのではなく、一つにしてまとめて今までにはない形式で子供たちに命の大切さを伝えることにした。

事業内容

有害鳥獣の鹿革を活用し、反射材の交通安全のお守りをワークショップ形式で作り、反射材着用の重要性を教えながら、自分の命や家族の命を守ることの大切さを伝えた。

商業施設、イベント、教育機関など 25 カ所で実施し、3400 枚製作・配布した。



【 伊賀良文化祭にて 】

事業効果

- ① 有害鳥獣の鹿革を使うことで、有害鳥獣被害について興味を持ってもらい、獨協大学の経済学部とのゼミと共同で課題研究として取り組むことになった。
- ② 今までにないワークショップ形式の自発的な交通安全活動で高い評価を頂き、伊賀良まちづくり安全委員会と連携をとり合い、今後も伊賀良文化祭でこの事業を続けていくことになった。
- ③ この事業の先に子供たちの居場所作りという目標があり、事業を通して子ども食堂に繋がる協力団体との連携ができた。
- ④ 数ある交通安全指導の中で反射材に特化したことにより、子供たちに分かりやすく説明でき、子供たちから家庭へ有効的に伝えることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

有害鳥獣の鹿革で御守りを自分で作ってもらう参加型形式にしたことより、「命」の大切さをより深く伝えることができた。また、御守りを作った子には最後に免許証を渡し、その裏側に悩みがあれば 189 番に電話することを印刷し、相談窓口を伝える工夫をした。

今後はオンライン、動画を活用しながら、一人でも多くの子供たちに「命」の大切さを伝えていく予定である。2年目は獨協大学と連携して、教材キットを作って活動を広げる。

【選定のポイント】
有害鳥獣の要素も取り入れた参加型の交通安全教室というユニークなアイデアで多くの子供たちに命の大切さを伝えることができた。令和2年度も、大学生と連携してお守りの教材キットや動画を作成するなどの取組を予定しており、活動の広がりが期待できる。

団体名	ジングルライダー（飯田市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	会長 木下 英幸 090-4132-9946	事業費	1,252,418円
メール	kawadoraku@gmail.com	支援金額	925,000円

保育に関わる人のための安全対策講座

取組に至る背景・事業の目的

長野県では、平成27年度より「信州型自然保育（信州やまほいく）認定事業」が開始されており、南信州地域でも多くの園が認定を受け、それぞれの地域の特色を活かした自然体験が盛んに行われている。そういった中、現場の保育者らからは、自然の中での活動に対する期待と、安全面に関する不安の言葉を同時に聞くようになった。また、平成30年2月の高森町で発生した屋外保育中の事故を契機に、学び直しの機会や組織体制の見直しを考える保育者（園）から、安全管理についての相談を受ける機会が増えた。それらを背景に、保育者を始めとする、保育サポーターや保護者など、保育に関わる人が、改めて保育の安全管理について学ぶ機会を設けたいと考え、本事業を開催することとした。

事業内容

保育者や保育に関わる方（保育サポーター、保護者）を対象として「保育に関わる人のための安全対策講座」を開催した。

1. 危険予知編

実施月：令和元年7月、8月、9月

会場：高森町、阿智村、飯田市 参加人数：97名

2. 応急手当編

実施月：令和元年9月、10月、11月、
令和2年1月、2月

会場：飯田市 参加人数33名



【危険予知編でのグループワーク】

事業効果

- ①地域の保育者や保育に関わる方（保育サポーター、保護者）に、長野県内で盛んになりつつある自然保育（屋外保育）を想定し、危険予知を中心にした安全対策講座を提供できた。
- ②少人数で、質の高い訓練内容として評価されている国際的な救急法訓練プログラムを、受講者の負担を抑える形で提供でき、保育現場に訓練レベルの高い応急手当プロバイダーを輩出することができた。
- ③地域の保育者養成校の教員と、各市町村の教育委員会や保育施設、保育者等地域の保育に関わる人材とのネットワークを構築することができた。今後も交流を続け、情報交換や新たな研修機会を創出していくことが期待できる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後も継続して、同講座を開催し、保育者及び保育に関わる方の安全意識の向上に努めると共に、地域の保育者養成校と、保育機関、保育人材とのネットワークを構築し、情報交換や新たな研修機会の創出につなげていきたい。

また、講座参加者からは、「危険予知、予防についての方が対策より大事だという感覚が現場にまだないような気がするので、今日はいい勉強になりました。」（危険予知編）、「人数もちょうど良く、しっかり実践ができました。今後は、以前より自信をもって応急手当したいと思います。」（応急手当編）といった感想があった。

【選定のポイント】
飯田女子短期大学の知見を活かした安全対策講座を実施し、南信州全域から多くの保育士の参加があった。令和2年度は、元年度の内容に加え、組織マネジメント編を新たに設定しており、さらなる広がりが期待される。

団体名	飯田女子短期大学（飯田市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0265-22-4460	事業費	555,417円
メール	soumu@iidawjc.ac.jp	支援金額	390,000円

氷風穴群周辺環境整備事業

取組に至る背景・事業の目的

風穴は、夏に礫と礫との隙間から冷風が出る特異な場所として知られている。

氷風穴の歴史は古く、300年以上前から使用されており、江戸時代には冬場に池から切り出した氷を貯蔵し、夏場に小諸藩主に献納した記録が残っている。また、養蚕業が発展した明治時代には、蚕が卵の状態越冬する習性を利用し、1年を通して低温で多湿な状態を保つ風穴の中に保管することで、蚕種を通年安定して供給するため利用されるなど、歴史的に見ても重要な役割を果たしてきた。当風穴は、13基の風穴を有して、全国から蚕種貯蔵の依頼を受け地域が栄えてきたが、昭和初期以降は電気の発展により、冷蔵庫が普及されるようになると利用も減少し、現在使用のものは1基のみとなっている。現地で確認できる風穴は7～8基あり、これは全国的にも類を見ない規模の風穴群である。

これらの風穴群を維持管理・保全しながら、広域に周知することで地域の伝統文化の継承と地域づくりを推進していく。さらに、風穴貯蔵物等のブランド化や地球環境保全を推進する。

事業内容

○周辺環境整備

来場者が来ても安全に手軽に見学できるよう、専用駐車場の確保、案内看板類の設置、風穴の整備、見学コースに支障の恐れがある枯れ枝の撤去などの環境整備を実施した。

○風穴の周知・理解の促進

大型案内看板とスタンドボックスを設置し、説明をし易いようにした。氷風穴の概要説明をわかりやすくするため、パンフレットを作成した。ポスターを作成して、周辺地域の公共施設・観光案内所などに配布した。風穴を正しく理解してもらうため、地域住民や風穴に興味がある方を対象に、風穴の歴史や役割、活用実績等について専門家による講演会や学習会を開催した。全国風穴サミットを小諸で開催するなど、全国各地での風穴サミットや学習会等に積極的に参加し、活動内容等を随時報告しながら交流を深めた。

○風穴貯蔵小屋の新設

ほとんどの風穴小屋が崩壊した中で、冷蔵貯蔵が可能な小屋を新設した。



【大型案内看板】

事業効果

○風穴の環境整備、各種取り組みを行ったことにより、来場者が年々増加した。

平成29年度 約600人、平成30年度 2,315人、令和元年度 3,128人

○風穴講演会や学習会、観察会などを開催し、地域住民や関心のある方に広く呼びかけ、氷風穴に関する知識を深めるとともに、正しく理解してもらうことが出来た。

○氷風穴が、県内外に広く知られるようになり、地域活性化に繋がった。

○全国の風穴の仲間や関係者と連携できるようになった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

○歴史的な自然遺産であるため観光拠点として役立てていきたい。

○自然エネルギーを利用した天然冷蔵庫の風穴貯蔵小屋を、エコ商品の開発や貯蔵事業に利活用しながら、ブランド化を図っていく。

【選定のポイント】

前年度に掘り出した6号風穴に貯蔵小屋を新築するとともに、見学コースの枯れ枝の除去、大型案内看板の設置、講演会の開催等により、風穴の保全及び観光客の増加を図った。3年間を通じて風穴を訪れる観光客が年々増加しており、今後も、エコに役立つ天然冷蔵庫としてのブランド化を図るなど、更なる取組の推進が期待される。

団体名	氷風穴の里保存会（小諸市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	小諸市大久保814（担当：前田）	事業費	1,167,208円
ホームページ	https://fuuketsu.wixsite.com/koori	支援金額	884,000円
メールアドレス	fuuketsu@yahoo.co.jp		

若宮区 区民交流の場再生事業

取組に至る背景・事業の目的

富士見町若宮区は高齢化が進む中、お年寄りのふれあいの場として長い間活用してきた『風月庵』がおよそ築350年以上の時を経て、茅葺き屋根の老朽化により改修が必要となった。このため数年前の区総会に於いて、改修の方向で決議され改修を実施する事となった。

新たな、風月庵改修委員会を開催する中で、貴重な茅葺きの建物を後世に残すために、葺き替え作業と内装改修工事を専門家に依頼し、それに関わる作業は区民が出来るだけ従事することにより、その技術を継承し、後世に残していきたいとの思いで、茅取り作業・内装改修工事を子供からお年寄りまでの区民総出の一大行事とし、3年計画の最終年度として茅葺き作業・内装改修工事に着手した。また、改修後の『風月庵』の利用方法に付いても区民より意見を求め、利用検討会議で検討をして出来る事より実行・開催をした。

事業内容

- 地域の貴重な財産を後世に残すための環境整備事業
 - ・茅葺・建物周辺整備作業（6月～12月）
 - 参加人員：延べ23名
- 区民総出、元気が出る思い出作り作業
 - ・茅取り（12月）
 - 参加人員：延べ48名
 - ・建物内装工事作業（4月～12月）
 - 参加人員：延べ177名（内子供35名）
- 改装後の『風月庵』での実施行事
 - 参加人員：延べ160名以上（子供・高齢者含む）
- 利用検討会議（4回開催）（4月～2月）
 - 参加人員：延べ63名



【子供達の茅葺き見学】



【子供達のクリスマス会】

事業効果

- 各作業に於いて、各年代の区民が集い作業することにより、昔の『風月庵』の思い出話に盛り上がり、子供達は今まで以上に区の歴史に触れ『風月庵』に興味を持ち、自ら利用方法等の意見が数多く出て、利用検討委員会で議題に取り上げる事が多かった。
- 建物内装工事には、お年寄りが多く参加いただき、子供達との良い交流の場となり、壁塗り・障子貼り等貴重な体験を子供たちにさせる事が出来た。
- 各年代による利用検討委員会を新たに立ち上げる事により、区民が『風月庵』の利用方法に対し積極的に意見交換が出来てとても有意義であった。
- 新たに、多くの利用方法が提案され、建物内に区民より寄贈された本で小規模な図書館を併設でき、中学生を中心とした「無料塾(学習の場)」を開催する事が出来た。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

区民大勢の方の協力により3年間の改修工事を終了する事が出来たが、今後も引続き周辺整備を実施する事とし、利用検討委員会は今後も各年代から委員を選出して『風月庵』を子供達とお年寄りが気軽に使用できる施設としての利用検討に取り組んでいきたい。

【選定のポイント】

多くの住民が地域のふれあいの場である『風月庵』を協働で再生することにより、郷土愛の醸成及び地域内の多世代交流の促進が期待される。

団体名	若宮区（富士見町）	事業タイプ	ハード事業
連絡先	090-3092-6279	事業費	5,362,385円
	事務局 名取 和夫	支援金額	3,400,000円

桑のふるさと再生プロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

池田町では、養蚕業の衰退に伴う遊休桑園の増加により景観の悪化や獣害の増加などの問題が顕在化していた。このため、当時健康食品として町のハーブセンターが開発した「桑茶」に着目し、不足していた原材料の桑葉の生産量の拡大を図るとともに、美しい桑畑の景観の再生を目指す。

事業内容

- 耕作放棄桑園の再生（6～9月）
地域住民を巻き込みながら、基盤整備を実施
- 桑植樹イベントの開催（2回）
モデル桑畑への桑植樹を町民参加型で実施
- 桑の教室（4回）
桑の歴史的背景や新たな活用法を学習する講座を開催
- 桑栽培の先進地視察（8月）
信州大学繊維学部の桑葉試験圃場を見学



【植栽イベントの告知】

事業効果

- 桑葉の担い手確保
当初は桑畑を整備することに地域の十分な理解が得られない時期もあったが、「桑植樹イベント」、「桑の教室」などの取組を通じて理解・共感が進んだ。今回の取組により、ボランティア会員の増加にもつながり、将来の担い手確保が期待される。
(ボランティア会員数：15人→32人 (+17人))
- 桑葉の生産量の増加
新たに桑畑の基盤整備を実施し、3年後の収穫期には将来の需要をまかなう十分な桑葉の生産量確保が見込まれる。
(基盤整備面積：900m²)

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・植栽したばかりの桑の手入れや鳥獣対策の検討を重ねながら、ボランティアとともに畑の維持管理を行っていく。
- ・「桑の教室」について、小・中学生にも参加してもらえるよう開催場所等を工夫する。
- ・桑の栽培手順のマニュアル化など、より多くの人が桑の栽培に携われる仕組みづくりに取り組む。
- ・桑の葉だけでなく、実、枝、根を漢方薬として利用する方法も模索していく。

【選定のポイント】
 持続可能な桑茶の生産体制の構築に向けた取組を実施し、ボランティア会員の増加や桑畑の整備など、将来の担い手確保と桑葉の生産量の確保につながる成果をあげた。
 桑葉の生産の持続と山麓ブランド品「桑茶」の認知度向上に加え、廃棄していた実、枝、根の漢方薬としての利用など更なる事業の発展が期待される。

団体名	桑ひろっ (池田町)	事業タイプ	ソフト・ハード
連絡先	代表 山崎 嘉政	事業費	1, 302, 545円
		支援金額	1, 014, 000円

北アルプス地域における子どもの居場所づくり支援事業

取組に至る背景・事業の目的

県が推進する「子どもの居場所づくり」の一環として、当プラットフォームでは、北アルプス地域における実態把握に取り組んできている。当地域のニーズに合った子どもの居場所づくりを推進するため、研修会や子どもの居場所の試験的な開設を通じて、担い手の育成や継続的な体制づくりに取り組む。

事業内容

- 研修会の開催
 - ・子育て支援の実態調査の報告会 (1回)
 - ・乳幼児を持つ母親向けの学習会 (1回)
 - ・子どもの居場所づくりを考える研修会 (1回)
- 試験的な子どもの居場所の開設
 - ・夏休み宿題かたづけ隊 (3回)
 - ・おやつ付き放課後自習室 (2回)
 - ・新春大人も子どももみんなで書初め (2回)



【冬休みの子どもの居場所づくり】

事業効果

- 子育て支援の実態把握、乳幼児を抱えた母親ケア
子育て支援実態調査の報告会において意見交換を行い、居場所を作りたい人や行政関係者が実態を把握し、情報を共有した。また、母親向け学習会により子育て支援に関する情報を提供した。
(研修会等へ参加人数：延べ66人)
- 居場所づくりに関するニーズ把握と担い手の拡大
子どもの居場所づくりを考える研修会の実施や「子どもの居場所」の試験的な開設により、小学校から高校生までの様々なニーズを把握し、潜在的な居場所づくりの担い手を掘り起こし、協力の輪をひろげることができた。
(子どもの居場所への参加人数：延べ59人)

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・長期休みや帰宅時の電車待ちにおける「子どもの居場所」のニーズに応える取組を推進する。
- ・潜在的な居場所づくりの担い手と居場所を求める子どもたちをつなぐ仕組みづくりを行う。
- ・居場所づくりの担い手を育成するとともに、継続して支援できる仕組みづくりを行う。

【選定のポイント】

子育て支援に関する実態調査や子どもの居場所の試験的な開設により当地域のニーズを把握した他、母親向け学習会により支援情報を提供した。

本事業により協力の輪が広がってきており、当地域のニーズに応える継続的な居場所づくりが期待される。

団体名	北アルプス地域子ども応援プラットフォーム (大町市)	事業タイプ	ソフト
連絡先	代表運営委員 金枝 由香里	事業費	500,532円
		支援金額	400,000円

白鳥園協働の公園づくりプロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

新白鳥園の未活用敷地を「花と緑の公園」にすべく、NPO、花づくり活動団体、企業、自治会、千曲市及び造園・園芸専門家等による「白鳥園協働の公園づくり実行委員会」を設立した。

この協働の公園づくりを通じて、身近な緑（森）をつくり守る活動、身近な緑の大切さを次世代に伝える場所とし、さらに花と緑を通した市民（団体）の交流の場、花種等の育成及び交換場所づくり、情報交換などができる市民活動の拠点づくりを目指す。

事業内容

- 市民の森づくり
身近な緑（森）をつくり守る活動、身近な緑の大切さを次世代に伝える活動として、協働による市民の森づくり
- 市民交流花壇（アートガーデン）づくり
残された由緒ある日本庭園、記念樹、岡本太郎オブジェに注目し、アートとガーデンを融合させた市民交流花壇の整備
- 花と緑をたのしむ仲間づくり
花と緑を楽しむ個人・団体のスキルアップを図り、協働の公園づくりの担い手を発掘するために講習会の開催
- 協働の公園づくり研究会
専門家を交えた研究会を通してデザイン・設計、また継続的な管理をできる技術的支援、体制づくりの検討



【市民交流花壇の様子】

事業効果

- 広大な敷地をどのように整備していくかという課題に対し、対象としている公園想定面積約13,000 m²のうち、約2,000 m²を森づくり、約280 m²を市民交流花壇の整備を行った。
- 市民の森ゾーンは、部分的であっても公園の囲み効果、周辺建物に対する修景効果が生まれる。また、市民交流花壇エリアには、旧日本庭園が隣接し、岡本太郎オブジェもあることから、公園の特徴付けが可能となった。
- 一人でも多くの賛同者を増やし、ボランティアの力で花と緑の公園を手づくりすることで市民が公園に愛着を持つという課題に対しては、台風19号の影響により森づくりや植栽イベントの参加人数は少なかったものの、現在ガーデンサポーター登録者は58名になった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 市民の森ゾーンは、部分的であっても公園の囲み効果、周辺建物に対する修景効果が生まれた。また、市民交流花壇エリアには、旧日本庭園が隣接し、岡本太郎オブジェもあることから、公園の特徴付けが可能となった。
- なお、本支援金を継続活用により市民の森と市民交流花壇の整備を完了させ、その後は、樹木や花壇の管理を将来に渡し継続するものであることから、本実行委員会が主体となり市民を巻き込む交流事業などを継続展開しながら管理を行っていく。

【選定のポイント】

地域住民を巻き込んだ様々なイベント・取組を通じて、地域住民に愛される白鳥園の形成に寄与した。都市公園の適切な維持管理に関わる官民連携の先進的な取組となった。

団体名	白鳥園協働の公園づくり実行委員会 (千曲市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	026-274-1971 実行委員会事務局	事業費	2,945,159円
		支援金額	2,145,000円

雪室スノーパール利活用促進事業

取組に至る背景・事業の目的

山ノ内町にある雪室「スノーパール」は、豊富にある雪を活用した農産物等の貯蔵施設である。年間を通して、一定した低温・高湿度のため、一般的な冷蔵庫に比べ長期間良好な鮮度保持が期待される。

また、山ノ内町は、りんごやぶどうを中心とした果物やブランド米である「雪白舞」など、品質の高い農産物が生産される地である。これらの農産物等を雪室で貯蔵し、高付加価値化や雪室貯蔵商品としてのブランド化を進め、地域資源の魅力向上と雪の利活用を図る。

さらに、雪室「スノーパール」でのイベント「雪室コンビニ」の実施により、地域住民や事業者等に施設や取り組みを周知し認知度をあげ、施設の維持管理と有効活用に取り組む。

事業内容

雪室に対する関心を持ちまた深めてもらうため、雪室貯蔵商品の販売や雪室施設の見学等を行った。あわせて地元の旅館と連携し、前年の秋に収穫し雪室で貯蔵した町内産のりんごにフォーカスした試食会を実施した。今回は特に、過去に実施したイベントでの課題を踏まえ、「雪室コンビニ」での販売アイテムを雪室に貯蔵したりんご「雪室りんご」に特化し、雪室の存在をアピールした。

①雪室コンビニ（雪室イベント）

- 平成 31 年 4 月 27 日（土）、28 日（日）の 2 日間にわたり、雪室スノーパールにおいて、施設内の見学と「雪室りんご」の販売、開花時期を調整した桃の花のプレゼント等を実施した。

②「雪室りんご」の試食イベント

- 平成 31 年 4 月 26 日（金）に宿泊事業者に対し雪室スノーパールの施設見学会を実施。あわせて雪室や「雪室りんご」の利活用について意見を聞いた。
- 観光客（宿泊者）に「雪室りんご」の提供（試食）を行い、雪室施設の周知・PRとともに、「雪室りんご」に対する意見を聞いた。



【 雪室コンビニの様子 】

事業効果

雪室コンビニでは、2日間で222人が来場し、雪室の見学、ヒンヤリ体験、商品の購入等を楽しんだ。「雪室りんご」の販売は、初日の開店当初から順調に進み、急きょ個数制限をかけるほど盛況だった。

また、商品販売に加え、雪室に入れ開花時期を調整した桃の花のプレゼントを行った。すでに平地ではほとんどが散ってしまっている桃の花が、雪室貯蔵で満開になっていることで、雪室の効果・仕組みを分かりやすくPRすることができた。

「雪室りんご」試食イベントでは、町の基幹産業である観光・宿泊事業者13者の協力を得て、雪室スノーパールや「雪室りんご」の周知と、今後、観光客への活用等について意見を聞いた。また、雪室や雪室貯蔵を知らない観光客に対して、雪室施設や雪室貯蔵品のPRを行うとともに、「雪室りんご」に対する率直な意見を聞き事業展開に役立てた。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

元気づくり支援金を活用して事業を実施するなかで、ほとんど知名度がなかった雪室を、地域住民をはじめ多くの方々に知ってもらう機会とすることができた。H30年度は雪室貯蔵品の販路拡大のため首都圏に目を向け、R1年度は地元に戻り雪室・雪室商品の訴求、ブランド化の推進を図ってきた。雪室の施設規模が限られるため、商品の多品種展開は難しい面もあるが、これまでの取り組みで得られた効果や課題を検討し、訴求方法、貯蔵する材料の見直しなどブラッシュアップしながら、雪室のブランド化につなげていきたい。

【選定のポイント】

古くからの雪国の知恵である「雪室」を活用した取り組みは、住民等が雪を資源として活用することの再認識につながっている。今後も、地元住民や事業者と連携した取り組みにより、雪の有効活用と地域資源のブランド化が期待される。

団体名	山ノ内町雪室利活用協議会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0269-33-3111（山ノ内町役場内）	事業費	862,241円
ホームページ	http://town.yamanouchi.nagano.jp/	支援金額	674,000円

住民参画による地域の魅力発信事業

取組に至る背景・事業の目的

観光地「軽井沢エリア」の観光客をターゲットに、ラジオ放送やフォトブック配布等により佐久地域内の魅力を発信し、地域内周遊、滞在時間の最大化による地域経済の活性化を目指す。



【番組公式フェイスブックより】

○FMラジオ番組の制作・放送

FM軽井沢と共同して全国ラジオ放送（全国約100局・Webラジオ約50局）可聴エリア人口約2,600万人に、佐久地域の魅力を発信する情報番組「軽井沢ドライブガール」（毎週日曜14:10～14:20）を制作放送した。取材では住民参画を基本とした広域的な情報発信に取り組んだ。

○SNS等による情報配信

ラジオ放送だけでは伝わらない取材先の様子、風景、住民の声などの情報を番組公式フェイスブックで紹介した。また公式フェイスブックのフォロワー数や、投稿した記事のリーチ数から効果測定をした。

○フォトブックの制作

佐久地域の認知度向上とPR媒体の充実を図ることを目的に、これまでラジオ番組制作でストックしてきたコンテンツをまとめた佐久地域魅力発信フォトブックを5,000部制作し、地域内外へ配布した。

事業効果

○可聴人口は2,600万人となり前年比200万人の増加となった。

○番組公式フェイスブックのフォロワー数は1,327人で前年比567人の増加、1記事あたりのリーチ数（記事を読んだ人）は959人で、前年比109人の増加となった。番組ファン獲得により佐久地域の認知度向上につながった。また番組をきっかけに佐久地域に訪れた方もいた。

○フォトブックは5,000部発行し、11市町村、観光協会、取材協力先を中心に配布した。またSNSを見て設置依頼を申し込む店舗もあった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

ラジオ番組の制作は事業規模を縮小し、市町村や関係団体と協力しながら継続していく。

【選定のポイント】

FMラジオやSNS等を通じて、軽井沢町を起点とした周遊観光等の魅力について情報発信するとともに、3年間の取材で得られた素材を活用したフォトブックを制作し、佐久地域の魅力や認知度の向上に寄与した。今後は、ラジオ番組の規模は縮小されるものの、市町村や関係団体と連携した取組の継続が期待される。

団体名 佐久広域連合	事業タイプ ソフト事業
連絡先 0267-62-7721	事業費 6,528,550円
ホームページ http://www.areasaku.or.jp	支援金額 5,000,000円
メールアドレス sakukouiki@areasaku.or.jp	

西箕輪山麓マウンテンバイクフィールドプロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

西箕輪地区は中央アルプス北部の経ヶ岳山麓東に広がる地域で、標高 900m に位置し、野菜・果樹等の畑作振興が行われている。平成 6 年に羽広地区で温泉が掘削され、平成 9 年に日帰り温泉施設「みはらしの湯」、平成 11 年には羽広農業公園「みはらしファーム」が誕生し、年間 50 万人を超える体験型農業公園として発展してきたが、来園者は徐々に減少傾向にあるため、周辺の自然環境を生かした新たな魅力づくりが課題となった。

伊那市では、みはらしファームと連携した観光振興の推進を目指し、平成 29 年度から地域おこし協力隊による「みはらしマウンテンバイクフィールドプロジェクト」を開始した。自然の地形を生かしたマウンテンバイクの初中級者向けコースと上級者向けコースを整備し、訪れる方が豊かな自然を体験する場として地域の魅力を発信する。

事業内容

【平成 30 年度】

- エントリー（初・中級）コース（総延長約 3.5km、整備コース約 2km）の設置
- マウンテンバイク 15 台（大人用 2 台、子ども用 13 台）ヘルメット（23 個）の購入

【令和元年度】

- 自然植物園（上級者）コース（延長約 2.2km）の設置
- 地域住民参加によるコース周辺の環境整備 20 名参加



【森の中を滑走するトレイルライド】

事業効果

- 魅力ある観光地づくり
みはらしファーム周辺の山林内にコース整備を行うことにより、若い年代の客層が増加し、収穫体験、ものづくり体験や農産物直売所などへ誘客の相乗効果が見られた。
- 山林の有効活用
山林の中に幅 1 メートル程度のコースを作っていくため、山の形状を大きく変えずに活用でき、茂った藪等を払うことで、森林の保全につながった。
- 地域の活性化
健康的でエコなスポーツとして利用してもらうことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 伊那市自転車活用推進計画の 4 目標の一つとして「サイクルツーリズムの推進による新しい観光開発」があり、体験型旅行など観光地域づくりと既存の自転車アクティビティとの連携による地域振興に取り組むたい。
- 周辺山林内では、不法投棄が後を絶たない。コース利用者には周知徹底を図っているが定期的なパトロールを行い、抑止に努めるとともに、自然災害による風倒木の処理等による山林の保全、利用に伴う安全対策等について、地域との連携を強めていきたい。
- 運営が安定し継続できるよう、イベントやマウンテンバイクライディング講習会を開催しリピーターの確保やみはらしファーム等と連携した PR 効果を高め、新たな誘客を図りたい。

【選定のポイント】
地域の自然環境（森林資源）を活用し、住民との協働によりマウンテンバイクを西箕輪地域の新たな観光資源として生み出し、定着させた。今後、近隣施設との連携により、利用者数のさらなる増加が見込まれ、発展が期待される。

団体名	西箕輪地域協議会（伊那市）	事業タイプ	ハード事業
連絡先	伊那市地域創造課西箕輪支所 0265-72-2319	事業費	4,180,000円
		支援金額	1,000,000円

坂バカ集まれ！中山間地を漕いで走って村おこし事業

取組に至る背景・事業の目的

陣馬形山（じんばがたやま）山頂は、伊那谷と中央・南アルプスを一望する展望台として、トレッキングやキャンプの来客が多い。山頂までの林道は、平成 27 年に全線舗装化され、アクセスの向上が図られた。自転車のヒルクライムの適地としてサイクリストの数も増加している。村内は河岸段丘に富み、自転車での周遊には最適な場所である事から、ヒルクライムイベントの開催により、自転車を核とした地域活性化を行う。

来客者の村内滞留時間の延長を図るため、宿泊施設等とタイアップしたおもてなしを行う。

事業内容

- 信州ながわ陣馬形山ヒルクライム
村内の自転車愛好家を中心に実行委員会を立ち上げ、計画から運営まで主体的に担う。村も実行委員会の一員として、運営に携わり、200 人が参加した。
- ヒルクライム関連イベント
自転車機運を盛り上げるため、子ども向けレースを開催。
- おもてなしイベントとして地域住民の参加
イベントの沿道応援のみならず、給水での地域住民の参加、商品への農産物の提供など、主産業が農業である村を踏まえて、農業者によるおもてなしを実施。
- 村内自転車周遊コースの設定
実行委員会を中心に、自転車による村おこしのための調査・研究の実施。



【ゴール後山頂集合写真】

事業効果

- 出走者や観覧者へのマップ配布により、村の観光の目玉としてのサイクリング適地を印象づけた。
- 村内から農産物の提供を受け、抽選会で参加者に提供する事で、農産物のブランド化を図った。
- 村内の飲食店や商店、観光施設にサイクルラックを設置し、自転車による周遊型の観光振興に寄与した。
- 沿道では子どもからお年寄りまで、地域の方々が多くの声援を送った。初めて見る自転車レースに驚きながらも、地域の元気を実感できるイベントとなった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 秋の稲刈り時期であり、かつ観光シーズンであることから、道路全面封鎖の調整のため、地元への説明や警察との協議、迂回路看板の設置など丁寧に対応した。
- 地域住民からは、地域を盛り上げるイベントとして継続を望む声が聞かれ、イベントに対する新たな提案など、住民が地域おこしについて考える契機となった。
- 初めての開催であることから「おもてなし」を入念に計画し、地域の皆さんからも農産物の提供や多くのスタッフの方々に協力頂いたが、物的なおもてなしの部分の部分を少なくすることで、費用的な負担を減らし継続的なイベントとして開催していくことが望まれる。
- 新型コロナウイルス感染症により、イベントの開催方法も新たな手法による開催が必要となった。参加者数の増加など、数字の拡大だけが目的とならない開催となるよう実行委員会で検討を進めていく。
- 引き続き自転車を活用したイベントの開催を企画し、地域に元気を与える取り組みとしていきたい。

【選定のポイント】
起伏の激しい地形を生かした自転車走行イベントに加え、サイクルラックの製作により村内周遊拠点の整備を行った。今後、近隣市町村や上伊那管外の関係団体との連携が期待され、新たな観光資源として発展することが期待される。

団体名	信州ながわ陣馬形山ヒルクライム実行委員会 (中川村)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	中川村産業振興課 0265-88-3001	事業費	2,909,975円
		支援金額	805,000円

「日本一のくるみの里・東御市」ジャンプアップ事業

取組に至る背景・事業の目的

○東御市で1915年（大正4年）に大正天皇即位記念として旧和村全戸にくるみの苗木が配布されたことを契機に東御市のシンボルとして市内全域で栽培された。くるみ生産量は日本一である。

○もともと特産省力果樹であるくるみの栽培・品質管理は体系化されているとはいえない状況であることに加え、消費ニーズの高まりが逆効果となり、品質の良くないものも東御市産くるみとして販売されている状況が散見される。

○以前はくるみの収穫から加工、調理、食事などを通じてくるみを用いた郷土料理が受け継がれてきたが、最近では若い世代、とくに子供達がくるみを身近に感じ親しむ機会が減っている。

○東御市産くるみの品質の安定化と収穫量の増加に向けた取組みを実施するとともに、伝統を継承し、くるみの食卓食材としての認知度を向上させ消費拡大を促進する。

事業内容

- 栽培者向け「信濃くるみ栽培指針」の刊行 500部
- レシピ本「くるみ日和」の刊行 1000部
- レシピ概要リーフレット作成 30000部



【剪定講習会の開催】

事業効果

- 「信濃くるみ栽培指針」は熟練農業者の技術の整理と栽培工程を明確化し、その内容を反映させることができた。
- 苗木剪定講習会で検討した内容を加味した講習会を実施したところ、30名の参加があった。
- 伝統料理やプロ考案のものを含めて27のレシピを掲載した「くるみ日和」を刊行することができた。



【地元高校生との調理の様子】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

○くるみの魅力とともに、東御市の魅力を発信するよう工夫した。レシピ集ではあるが、くるみに関わる歴史、文化、生産等に光をあてることで日本一のくるみの産地東御市の魅力も伝わるよう努めた。

○掲載した料理は、地元から受け継ぎたい郷土料理のレシピ、クルミは栄養価の高い食品としても注目されていることから管理栄養士監修の創作料理、プロの料理人直伝のレシピの3種類とした。

○今後も東御市やJA くるみ部会と連携して、剪定講習会や苗木定植講習会を実施し、その際に最新の知見に基づく栽培指針の配布や解説を行うことで、くるみ栽培工程管理の徹底を図り、品質や収穫量の向上に努める。またレシピ本も料理講習会やくるみの収穫体験イベントなどで配布し、活用の輪を広げる。

【選定のポイント】
 東御市のくるみブランドが継続的に発展するよう、栽培指針とレシピ本を刊行し、栽培と利用の両方の観点から事業を進めた。栽培指針は基本的な栽培技術の他に最新の病害もカラー写真でわかりやすく記載されており、生産者のみならず技術者も参考にするほどの冊子となった。レシピ本は非常に好評で増刷が予定されている等、他地域への波及効果も期待できる。

団体名 日本くるみ会議（東御市） 連絡先 0268-64-5894（東御市役所農林課）	事業タイプ ソフト事業 事業費 3,460,919円 支援金額 2,764,000円
--	--

農業担い手移住就農促進事業

取組に至る背景・事業の目的

南信州地域の農業分野の担い手不足対策、地域農業の維持と持続への取り組みは、これまで行政やJA等が個々に行って来たが、同じ目的や課題を共有する各組織が一丸となってこれらに対応する必要があることから、「南信州・担い手就農プロデュース」を組織して活動している。

県をはじめ行政が取り組んでいる南信州移住促進事業等とも連携し、南信州の知名度、認知度の向上を図り、新規就農による移住定住事業を強化することを目的とした。

事業内容

- 1 まるごと南信州フェア in 名古屋
南信州地域PR、南信州での就農・移住に対する相談会、南信州産農産物を見て・触れて・食べてのPR展示
- 2 まるごと南信州フェア in 新宿
南信州地域PR、南信州での就農・移住に関する座談会開催、南信州産農畜産物販売による地域産物PR
- 3 南信州管内就農・就業相談会
地元の農業後継者及び新規就農者を発掘し、就農・農業法人への就職等に向けた相談会
- 4 南信州現地訪問見学会の実施
夏・初秋・冬の南信州の案内、農家訪問、農業者との交流、当地域農業についての講義、市町村職員との交流
- 5 就農&移住総合ガイドブック作成
就農による移住希望者との相談対応に使えるガイドブックを作成
- 6 農業求人サイト「あぐりナビ」活用による、南信州への誘致PR事業



【新宿での南信州フェア】



【南信州現地訪問見学会】

事業効果

就農・移住フェアは名古屋1回、東京1回、地元で1回実施した。その他民間が実施する農業人フェアや長野県が実施する相談会にも出展し、来年度「南信州担い手就農研修制度」への応募者5名を採用した。この研修制度は、市町村が地域おこし協力隊として採用する者をJAが研修生として受け入れるもので、当プロデュースが市町村・JA・地域振興局・広域連合と連携し、南信州での就農や移住を誘致したことの成果が発揮された1年であった。

また、この研修制度以外にも、松川町や阿智村では町村独自の研修制度を構築し、研修生確保にも至っている。農業法人への就業希望者とのパイプ役としても機能を発揮し、根羽村では研修生採用に至る農業法人ができた。

トータルでは12名が今年度南信州に移住し、内農業研修生は9名であった。事業を単年で終わることなく、官民が一体となり継続して取り組むことで成果につながった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

引き続き市町村・県・広域連合との連携を強化し、まずは「南信州」という地域全体のPR活動を積極的に行う。その中で「就農」「移住」については「農住」という表現に変更して相談対応を進め、地域農業の最大の課題である担い手不足解消及びリタイヤ農家の第3者承継への対応を含め、市町村等の移住定住事業と密に連携し、移住定住の促進にも寄与する。さらに次年度は南信州14市町村全てが当プロデュースに参画することから、農業法人との連携をよりいっそう進め、内外に示すことのできる新規就農サポート事業のモデル化を図りたい。

【選定のポイント】

JA、市町村、広域連合、県が連携して事業を実施した結果、前年度の実績を上回る成果をあげた。令和2年度は管内14市町村すべてが参画しており、南信州一体となった取組が期待される。

団体名	南信州・担い手就農プロデュース（飯田市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0265-52-6644	事業費	957,600円
ホームページ	https://shuunou.minamishinshuu.net/	支援金額	766,000円

学生による地域課題解決事業「タテシナソン」

取組に至る背景・事業の目的

- RESAS（地域経済分析システム：内閣官房提供）では町の第3次産業の付加価値額は1,719自治体のうち1,600位であり、稼ぐ力が弱いことが地域内の雇用不足と人口流出を招いている。
- 年間約30名の10代後半の住民（人口の約0.4%）が転出し、大半が戻らないため、全国学生が当町に注目するきっかけを創出し、住民との交流により、関係人口を生み出す場を作る必要がある。



【参加者集合写真】

事業内容

- 町内事業者の「稼ぐ力」の向上を図るため、町内事業者が抱える経営課題に対して課題解決と経営資源や地域資源の価値化に繋がるアイデアを提案する学生アイデアソン企画「タテシナソン-立科町をヤバくする学生アイデアソン。リアルガチの28時間-」を開催した。
- タテシナソンとは「アイデアソン（アイデア+マラソン）：立場の異なる様々な人たちが集まりチームを組んで、ひとつのテーマや課題を解決するアイデアを、決められた時間内で提案し、そのアイデアの優秀さを競い合うイベント」の立科町版である。
- 9月上旬の2日間、町に全国や地元から初対面の学生20名とプロフェッショナル（経営コンサルや広告会社等に勤務する社会人6人）が集まり、学生は5名1組のチームを組んで、地元ガイドの支援のもと、白樺高原にある観光アクティビティ施設「マーガレットリフレクパーク」の課題に挑戦した。
- 多くの町民が参加した公開プレゼンテーションでは、28時間に及ぶ現地調査や事業者ヒアリングと議論の末、各チームからアイデアが披露され、課題提供事業者が今後取組む優れたアイデアに対して「タテシナソン大賞」が贈られ、参加者全員に「タテシナソン民票」を手渡した。
- タテシナソン終了後に、タテシナソン参加学生による「タテシナソン民会議」を初開催した。学生が企画運営し、今後のタテシナソンの在り方や、自分たちと立科町との関わり方について議論した。

事業効果

- SNSの戦略的運用等の広報の結果、全国から定員を大きく上回る応募があり、優秀な学生が集まった。その結果、提案されたアイデアの質が高く、事業者によって実現に向けた取組が既に進められている。
- 本年度初の取組であったプロチームの参加により参加学生と事業者及び地域にとっても有益なアイデアを共有することができ、公開プレゼンテーションに参加した地元高校生を含む町民全体で、地域の未来への可能性を実感することができたものと思われる。
- これまでの開催によるアイデアの実現も進んでおり、取組の成果が認められて、一般社団法人日本地域広告会社協会主催の第4回JLAA地方創生アワードで、県内自治体で初めて最優秀賞を受賞した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- アイデアの事業化に向けた取組は進んでおり、事業化により事業者の価値向上につながったものもあるが、事業化に向けた障壁やマンパワー不足等により実現に至っていない事例も多いことから、タテシナソン後のアイデア実現に向けた伴走型支援を行っていく必要がある。
- タテシナソン開催以降も町との関わりを望む学生も多く、学生スタッフとして参加する者も多い。今後は、アイデアの実現に向けた段階においても関わることができるよう、仕組みを整えていく。

【選定のポイント】

県内外の学生が町に集まり、地域の事業者が抱える課題を解決するためのアイデアを出し合うイベントを開催し、地域課題の解決や関係人口の増加に寄与した。今後も、イベントの確立と、参加学生との長期的な関係の構築により、地域の活性化に向けた取組が期待される。

団体名	立科町	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0267-88-8403	事業費	1,973,700円
ホームページ	https://tateshinathon.com	支援金額	1,480,000円
メールアドレス	kikaku@town.tateshina.nagano.jp		

誰もが、障がい・年齢に関係なく「できることではなく、やりたいことを」

取組に至る背景・事業の目的

高齢や障がいがあっても、外出や旅行に行きたい、連れて行ってあげたいと思っている当事者やご家族が、「そもそも無理だ」「家族に迷惑だから」など、やりたい出掛けたい気持ちに蓋をしまっているという現状に対して、ニーズの掘り起こし、観光関係者、宿泊施設関係者等と協働で推進することにより、誰もが「旅=夢」を諦めることなく、心豊かに暮らしを楽しめる環境づくりを推進していきたい。観光施設、宿泊施設等でのユニバーサル対応に温度差があるため、コーディネートに苦慮する場面が多々あった。地域全体での意識の共有、向上が必要であった。また、『多様性を尊重する共生社会づくり』につながる、人権教育、インクルーシブ教育を行いごちゃまぜな社会を実現したい。

事業内容

○ユニバーサルツーリズムの可能性、周知と啓発のためのセミナー

【ユニバーサルツーリズム推進フォーラム in すわ】

『誰にでも優しい観光地すわ』になるために～ 参加者 130 名

○諏訪近郊のモーターツアーにおける地域トラベルサポーターのスキルアップ 講習

- ・「花田養護学校生徒と車いすユーザーの白馬で田植え」
- ・「障がい者・高齢者団体の外出」など計 12 回 参加者 830 人

○あいサポーター研修・車いす・JINRIKI 体験の実施

- ・「原村立原中学校人権学習あいサポーター研修」
- ・「がん征圧イベントツアー信州松本」など計 13 回参加者 795 名

○インクルーシブ教育、人権教育、教育連携事業

特別支援学校、支援学級の外出支援におけるコーディネーター講習 **【ユニバーサルツーリズム推進フォーラム in すわ】**

- ・花田養護学校 WS 合計：3 回 参加者：160 名 外出 合計：2 回 参加者：80 名

○バリアフリー情報マップの作成

- ・講師：デザイナー：原田泰治氏 作成メンバー：ユニサポすわ、らくらく入店の会

- ・WS (全 10 回・バリアフリー調査随時 85 か所) マップ 5,000 部作製



事業効果

○フォーラムの開催により、全国での先進事例を当事者、家族、行政、観光関係者などが体験することにより、身近な自分ごととして考える機会となり、諏訪地域が一步進んだ“誰にも優しい観光地”になるきっかけとなった。現地で調達できる福祉用具レンタルや自助具の導入紹介や展示を行い、手ぶらでバリアをフリーにできる安心・安全な外出を提案した。旅館・ホテルなどが高額な費用をかけずに、バリアフリー環境を提供する事が可能な事も周知できた。

○バリアフリーマップの作成・配布により、外出を諦めてしまっていた当事者やご家族に、安心感や勇気、やる気をもたらした行動に移すきっかけとなった。バリアフリー情報を出掛ける前に得て、心配事を減らせたことはハードルを低くする重要な要素になった。バリアがフリーではない場所についても、記載する事によりバリアを越えられる方法を見出し、越える危険を予知する事ができ、年齢や障がいを問わず多くの可能性を広げられるリーフレットが作成できた。収集した情報をリーフレットにまとめることにより、広く地域住民の目に触れ、バリアフリー環境への意識の高揚にもつながった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

諏訪圏では知名度もあがり、メディアでも取り上げられる機会が大変多くなってきましたが、コロナの影響により活動が制限される状態を余儀なくされております。先が見えない状況の中ではありますが、訪問介護事業所の開業も動き出し、感染予防の対策を万全に寄り添う気持ちと心は密接に、これからのユニバーサルな活動が地域の核になれるよう取り組んでいきたい。コロナ禍での新しい工夫と発想で安全で安心な多様性を尊重する共生社会づくりの強化を、これからも図っていきたい。

【選定のポイント】

人材育成や環境整備により、高齢者、障がい者等、誰もが旅行を楽しめる観光地域づくりの推進が期待される。

団体名	ユニバーサル・サポートすわ (茅野市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	090-3558-4502 牛山玲子	事業費	2,590,113円
HP	https://www.facebook.com/yunisaposuwa	支援金額	2,064,000円
Mail	yunisaposuwa@gmail.com		

新規就農者の地野菜生産を中核にした就農支援事業

取組に至る背景・事業の目的

- 近年、王滝村の人口が減少し、農業の中核を担っていた方の高齢化が進む中、地野菜の生産体制が弱まり、営農に限界が迫っている。同時に村の特産品の作付面積・収穫量も、ここ数年減少している。
- そこで、これまで村の農業の中心的役割を担ってきた高齢農業者が、まだ営農できるうちに、その技能をIターン等で来村された若者に受け継ぐ機会として、高齢農業者と若者の共同営農作業を推進するため、村内の高齢農業者からIターンで来村されたばかりのご家族までを幅広く対象とし、新規就農者の地野菜生産を中核にした就農支援事業を実施した。このことにより、地野菜生産拡大及び地域の農作業受託組織王滝村地域農業合理化組合（以下合理化組合）の再編を目指した。合わせて、今後の王滝かぶの生産を守るため、愛知用水流域からの観光客による収穫体験型農業を試験的に行い収穫作業における労力の補填を検討する中で、地野菜を通じた交流人口の増加を目指した。

事業内容

- 【水稻・王滝かぶ・そば栽培作業講習会】や【機械を活用した草刈り講習会】を行うにあたり、特産品目等の生産拡大を目指すため、それぞれに農作業機械を導入し、労力の省力化や、営農初心者の負担軽減を図った。
- 村内の多くの高齢農業者へ向けた受託農作業を供給できるよう、各種農作業機械運転講習会を開催し、多くの農業者が農作業機械を活用した効率の良い作業方法を習得した。機械のメンテナンス及び管理、運用を担う合理化組合においても、村内若者及び定年退職者の農作業機械オペレーター育成を同時に推進することができた。



【第1回 水稻栽培講習会参加者】

事業効果

- 新規就農者育成が活発に実施された。
- 機械導入により労力の省力化を実現できた。
- 合理化組合の新規オペレーター5名の育成ができた。
- 村外からの王滝かぶ収穫体験者による労力の補填に成功した。
- 【王滝かぶ】 H29 作付 0.4ha 収穫 5.0t→H31 作付 0.7ha 収穫 10.0t
- 【そば】 H29 作付 4.7ha 収穫 1.5t→H31 作付 4.9ha 収穫 1.4t
- 【水稻】 H29 作付面積 3.9ha→H31 作付面積 3.9ha



【労力補填：秋の王滝かぶ収穫体験】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 王滝かぶの生産を守るため、春秋の栽培等において、県外者の収穫体験を受け入れながら効率の良い栽培を目指す。同時に春の王滝かぶ赤かぶ漬・すんきの商品化を、少しずつ拡大させ、収穫作業における労力の補填を実施するなか、地野菜の収穫体験を通じた交流人口の増加へもつなげる。当該事業の営農活動におけるIターン者等の活躍が、未来のIターン者を受け入れる際のきっかけづくりになる可能性も十分秘めているため、多くの新規就農者の王滝村での営農を全面的にバックアップすることにより、長期を見据えた定住促進へつなげる。

【選定のポイント】
 水稻・王滝かぶ・そばの栽培講習会で営農初心者へ機械利用の講習会を開き、機械作業の担い手を育成するなど機械利用組合の人材確保・育成への取り組みが評価できる。今後も営農活動を通じて移住定住の促進に繋がることを期待する。

団体名 王滝村	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 0264-48-2001	事業費	2,829,492円
ホームページ http://www.vill.otaki.nagano.jp	支援金額	2,145,000円
メールアドレス otakivil@vill.otaki.nagano.jp		

女性のための起業・複業お仕事マルシェ信州プロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

女性の活躍が大きく期待される現在において、女性が「自分らしく」キラキラと輝くことができる地域づくりを実現するため、地元女性に起業や複業等の多様な働き方の存在とその魅力や可能性を知ってもらう機会を創出し、古くから商都として起業家精神が根付く、信州・松本を「日本一女性が起業しやすいまち」として実現していく。

事業内容

- 女性のための起業・複業お仕事マルシェ信州プロジェクト
「マルシェの森 2019in まつもと」の開催
 - 9/21~22、松本市勤労者福祉センター
 - 女性を対象としたブース出展型イベント
(地元女性起業家とのふれあいエリア、女性アーティスト&パフォーマーエリア、女性の起業複業ガイドエリア、女性の起業複業サポートエリア、パートナーズエリア、女性起業家ステップアップ講座エリア)
- ホームページの運営及び冊子の発刊(10,000部)



【マルシェの森 2019in まつもと】

事業効果

- 2日間の「マルシェの森 2019in まつもと」を通して、約2,000人の地元の女性に起業という働き方の魅力を発信することができた。
- 来場された方だけでなく、交流マルシェで出展された女性起業家からも会場内での様々な交流を通して、貴重な出会いや発見を得ることができ、今後の活動に大いに役立つという意見が聞かれた。
- イベントと連動して発刊した冊子の反響が大きく、県内の女性の活躍推進に取り組む団体等からも活用の申し出があり、大きな広がりを作ることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 本事業を通して、多くの女性起業家から得た貴重なアイデアやヒントを活用し、より多くの信州の女性が自分らしく夢に向かって色々なことに挑戦できる「イベント×インターネット×紙媒体」を連動させた魅力的な基盤(プラットフォーム)づくりにチャレンジしていく。

【選定のポイント】
女性の活躍をテーマにした社会的なニーズに合致した取組が展開されている。また、ウェブサイトを開設し、多種多様な情報を発信するとともに、地域で活躍する女性起業家を紹介する冊子を作成する等、広く情報発信がされており、取組の発展的継続に期待する。

団体名	日本一女性が起業しやすいまちづくり信州実行委員会(松本市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	事務局(古田) 090-2423-4439	事業費	1,998,452円
ホームページ	https://startup-shinshu.com/	支援金額	1,598,000円

あさひの採れたて野菜を楽しんで！

取組に至る背景・事業の目的

朝日村において、レタス、キャベツ、ハクサイ等の葉野菜の生産や、新鮮な地元産野菜の給食材としての活用等、地産地消や食育支援に取り組む中で、朝日産の野菜の特徴やおいしい食べ方、地元ならではの調理法等をまとめたレシピ集を作成した。作成したレシピ集を活用し、広く県外に対して、朝日産の農産物の認知度向上、販売促進、交流人口増を図るとともに、村内においては、子ども等を中心に朝日産の野菜のおいしさや多様性を知ってもらい、ふるさと朝日村への愛着と誇りを高める。

事業内容

- ・レシピ本「信州朝日村 採れたて野菜をもっとおいしくあさひ村からの野菜だより」の作成・配布・活用
 - ・作成
(3,000冊、村民からのレシピの募集、村内農家や移住者等によるデザイン、撮影、調理等による製作)
 - ・配布
(村内全戸、公共施設、商工会、飲食店、JA等)
 - ・活用
(村内、村外の野菜販売イベントや農業者セミナー、JA料理講習会等においてレシピ紹介、料理教室の開催)



【完成したレシピ集】

事業効果

- ・広く村内からレシピを募集したことで、朝日村の野菜について農家以外の人からの関心が高まった。
- ・デザインやイラストなど参加者の特技を活かして冊子を作成する中で、既存の村民と移住者との新たなつながりがうまれた。
- ・完成したレシピ集の評価が高く、宣伝媒体としても効果的に活用できた。
- ・レシピ集への問い合わせやイベント参加の依頼が増加した。
- ・小品目生産を目指す生産者組織の設立の契機にすることができた。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- ・レシピ集の完成時期(9月)が、野菜シーズンの終盤となり、イベントや料理教室の内容が限定的となったため、次年度以降、村外での活動を含む計画的な取組により、朝日村や朝日産野菜への関心を高める。小学校や保育園の子供たちとの活動においても同様に、子供たちの栽培する野菜農園の成長にあわせて野菜の説明や料理の会を開催する等、野菜により親しんでもらう活動を行う。また、日本一野菜を食べる健康市町村(成人一日あたり400グラム)を目指しての活動を始める。

【選定のポイント】
朝日産野菜をPRするためのレシピ集の作成にあたり、レシピの募集から製作まで広く住民等の参画を得ることができ、また、既存住民と移住者との交流を促進することができた。イベントや料理教室等、引き続きの取組に期待したい。

団体名	朝日村女性農業者担い手協議会 (現. にない〜て)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0263-99-2001 (朝日村産業振興課経由)	事業費	1,122,660円
		支援金額	898,000円

「花ごはん」で楽しむ白馬 Alps 花三昧・2019

取組に至る背景・事業の目的

白馬村のグリーンシーズンの中心イベント「白馬 Alps 花三昧」の魅力向上のため、昨年「花ごはん※」で白馬村を訪れる皆様をおもてなししている。この取組を地域全体に広げて地域活性化を目指すとともに、「花」にちなんだ特産品を開発し、白馬村の新たな魅力発信を目指す。

(※「花ごはん」とは、エディブルフラワー(食用花)を使った料理や花をモチーフにした器で食事を楽しむ取組)

事業内容

- 「花ごはん」の追加レシピ提案
- 「花ごはん」を提供する事業者の募集
- 新たな食の提供に関わる知識や技能の拡大
 - ・ 料理講習会の開催 (1回)
 - ・ エディブルフラワー栽培講習会の開催 (1回)
- 各種イベントでの「花ごはん」の提供やPR
 - ・ 花ごはんバスツアー (観光局主催)
 - ・ 信州花フェスタ 2019 (長野県主催)
 - ・ BMW モトラッド DAYS in 白馬 (BMW 主催)
- 花をテーマとした特産品の開発
 - 3種類の試作品の中から「花ロールケーキ」を選定



【大勢が参加した栽培講習会】

事業効果

- 「花ごはん」の地域への普及

花ごはん料理講習会、エディブルフラワー栽培講習会等の実施を通じて、花ごはんの地域へ普及が図られたことに加え、花の栽培から料理まで地域全体で提供できる仕組みづくりに貢献した。
(「花ごはん」提供参加事業者数：25 事業者→36 事業者 (+11))
- 花ごはんを通じた白馬村のPR

「白馬 Alps 花三昧」、「信州花フェスタ 2019」などのイベントに協力し、イベントを盛り上げるとともに、花ごはんを広く周知した。さらに、特産品土産として「花ロールケーキ」を開発し、白馬村の魅力为全国に発信した。
(白馬 Alps 花三昧来場者数：対前年比 11%増)

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・ 「花ごはん」の更なる周知に努め、参画する事業者を増やす。
- ・ 事業者の創意工夫による様々な「花ごはん」の提供ができるようにバックアップしていく。
- ・ 関係者、村観光局と連携を図り、Web を使った発信を強化し、花ごはんを通じて白馬村のPR につなげる。
- ・ 開発した「花ロールケーキ」を白馬村の新たな特産品としてPR し、白馬村の魅力発信に取り組む。

【選定のポイント】
 「花ごはん」料理講習会等を通じて、「花ごはん」の地域への普及に取り組み、また、白馬観光局主催の花ごはんバスツアーや信州花フェスタ 2019 に参画し、白馬村のPR に貢献した。
 令和2年度に「花ロールケーキ」の販売が開始されており、新たな特産品を通じた白馬村の魅力の発信が期待される。

団体名 白馬 Women's Club (白馬村) 連絡先 会長 丸山則子	事業タイプ ソフト 事業費 1,653,438円 支援金額 1,322,000円
--	--

落倉高原浅間山～牧寄スキー場跡ハイキングパーク構想

取組に至る背景・事業の目的

白馬村落倉地区の浅間山と牧寄スキー場跡の丘陵地帯（標高 100m弱、距離 3～4 km）の尾根は、鹿島槍から白馬乗鞍の絶景を楽しめる場所であるが、案内看板や休憩場所等がなく、安全で気軽に楽しむための整備がされていない。この周辺をウォーキングコースとして整備し、ガイドを育成することにより、落倉地区への誘客を図るとともに、地域の活性化を図る。

事業内容

- 落倉高原浅間山周辺の整備（6月～11月）
 - ・広場づくり（3カ所）
 - ・ウォーキングコースの拡張、入口周辺の整備
 - ・駐車場の整備
 - ・案内看板等の設置
 - ・間伐や下草刈り等の里山整備
- 観光誘致に関する取組
 - ・集客用プロモーションビデオ・リーフレットの作成
 - ・インバウンド用英字チラシの作成
 - ・ガイド育成教材の作成、研修会の実施
 - ・地域住民の体験プログラムの実施



【展望広場】

事業効果

- グリーンシーズンの観光誘致

安全で気軽に楽しめるウォーキングコースを整備するとともに、ガイド育成研修会の実施により、アシスタントガイドが4名増員となった。観光客の受入体制が向上したことにより、今後の観光客の増加が期待される。
- 地域の産業振興

地域住民による里山整備、体験プログラムを通じ、この地域全体が魅力ある観光資源であることに気づき、ボランティアによる参加も増加した。地域で観光誘致に取り組む体制ができつつあり、地域活性化に期待がもてる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・毎年コース草刈り・間伐などの整備を行うことと同時に、大木広場に東屋・水芭蕉広場の階段や柵の設置などの安全対策を継続して実施する。
- ・牧寄スキー場跡コース周遊するためのコース看板の増設を行う。
- ・将来的には、ウォーキングイベントや学校教育の場所としての活用ができるようにスタッフの教育と増員を図る。

【選定のポイント】
 地域住民の手で白馬村落倉浅間山周辺のウォーキングコースを整備するとともに、ガイドを育成して当地域への観光客の受入体制を向上させた。
 地域住民による観光誘致の取組を継続することで、地域活性化につながることを期待される。

団体名	特定非営利活動法人 落倉バックカントリーフィールド（白馬村）	事業タイプ	ソフト・ハード
連絡先	理事長 高橋 誠	事業費	763,134円
		支援金額	607,000円

信州中野おごっそフェア

取組に至る背景・事業の目的

中野市を含む信越自然郷エリアでは、北陸新幹線の開業により首都圏、北陸地域及び関西圏との交通の利便性が向上し、国内旅行者はもとよりインバウンドの誘客も期待できる状況にある。中野市近隣の市町村では、各地域の資源や特徴等を地域価値として活かした旅行者のための様々な受け皿が整備されている。中野市においても、地域の独自性を発揮できる農産物の生産が盛んであることや、多様な自然、歴史、文化が育まれてきたことから、他の地域を訪れる観光客等の通過地点ではなく、中野市を着地点に観光客等が訪れる取り組みが必要である。そのため、中野市の食を通して市外県外へ魅力を発信しPRすることを目的とする。

事業内容

- 開催日 令和元年 10月26日（土）、27日（日）
- 場所 中野市防災広場
- 内容
 - ・うまいもんブースでの中野市産の食材・農産物を使用したイチオシ！メニューの販売
 - ・おごっそ！す〜ぷ令和版の開発・販売
 - ・AMAZAKE フェア（甘酒飲み比べ）＋発酵食品文化のPR
 - ・JA youth Marche（農産物の販売とネット販売PR）
 - ・ご当地ヒーロー倍増戦士ロゼショー（おごっそフェア版シナリオ）
 - ・YEGノDASHIMONO（オリジナル看板メニュー開発・販売）
 - ・N-1グランプリ（事業者自らプレゼンする食のコンテスト）
 - ・他の団体事業（SEA TO SUMMIT）、地元高校生との連携
 - ・QRコード決済の推進PR、SNSを活用した広報活動 他



【おごっそフェア会場】



【AMAZAKE フェア】

事業効果

- うまいもんブース出店者数 40者
- 来場者数 10,015人
- 市外県外来場者割合 44.9%

令和元年東日本台風の災害に当地域も見舞われ、様々なイベントが中止や自粛せざるを得ない雰囲気の中、「おごっそフェアを開催し、前に進めていく事を復旧復興のシンボルとしたい」という思いで開催し、ほぼ予定どおり事業を実施することができた。事業者の中には被災され、出店を取りやめる方もあったが、ほぼ前年と同数の出店が得られた。

来場者数は目標の16,000人に達しなかったが、このような状況下でも10,000人を超えることができた。また、他団体と連携した企画やSNSを活用した広報活動の結果、通年でのフォロワー数の増加と、市外県外からの来場者及びリピーターの増加につなげることができた。アンケートでも86.1%の方から再訪したいという回答をいただいた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

例年10月に中野市で食のイベントを開催しているということが、市内外に認知され始めたが、さらなる地域資源の魅力発信・事業者の販売促進のため、また、継続によるマンネリ化防止のためにも、過去に培った知識や経験を活かして常に新たなチャレンジを試み、事業を継続して実施していく。

また、中野市・おごっそフェアのファンを増やしリピーターを保持することで、今後の交流人口の拡大と地域活性化につなげていく。

【選定のポイント】

開催直前に令和元年東日本台風に見舞われたが、出店者等の理解と協力を得て、ほぼ予定どおりフェアを開催し、地元事業者や住民の大きな励みとなった。SNS等での情報発信の強化によりイベントの認知度も向上しており、地域の魅力発信とともに観光客の増加、産業振興が期待される。

団体名 信州中野おごっそフェア実行委員会(中野市)	事業タイプ ソフト事業
連絡先 0269-22-2191 (信州中野商工会議所)	事業費 21,712,810円
ホームページ https://www.ogosso.nakanocci.or.jp/	支援金額 4,400,000円
メールアドレス ogosso@nakanocci.or.jp	

地域のママたちの「やりたい」を応援！スキルアップ講座事業

取組に至る背景・事業の目的

- 「子連れで出かけることで周りに迷惑をかけないか」と不安になり、子連れでの外出に躊躇してしまうママは多い。「信州おやこさんぽ」では長野県に住む子育て世代の週末がもっと楽しくなるための子育て世代向け長野県おでかけサイトを製作・運営しており、その中で、小さな子どもを持つ家族に向けた上田地域版のおでかけマップの必要性を感じていた。
- 一方で結婚や子育てが「今までのキャリアを捨てること」になってしまうという不安を感じているママたちがスキルアップすることで「自信」をつけ、さらにはスキルを「仕事」に繋げることを目的に事業を実施した。

事業内容

- おでかけマップ作りワークショップの開催
子連れで出かけることの悩みをシェアし、問題解決のための意見や情報を集積。
- ライター講座
新聞記者やブロガーによる文章の書き方、写真家による写真の撮り方等を8回のカリキュラムで実施。
- イラストレーター講座
グラフィックデザイナーによるイラストレーターの操作を3回のカリキュラムで実施。
- WEB制作講座
サイトを運営しているシステムエンジニアによる、HTML、CSSの基本文法から、ワードプレスの操作方法までを5回のカリキュラムで実施。



【マップ作りワークショップ】



【スキルアップ講座】

事業効果

- ワークショップの意見を反映させた「子育て世代向けお出かけマップ」が制作できた。「こんなマップが欲しかった」と多くの意見をいただいた。保育園等の要望により追加印刷となった。
- スキルアップ講座の受講者の中から「実際に収入を得た」「HPを開設した」という声が届いている。
- 信州おやこさんぽの事業に協力してくれる方が事業実施前に比べ倍以上に増加した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 講座で学んだ内容を実践でしっかり身に付けてもらうため、受講者がお出かけマップの一部分の制作やWEB版のページ作成を行った。受講者は子育て世代のママなので、主体性を持って取り組んでくれた。
- 支援金の存在を知らない人も多いと感じたため、応募時から事業終了までをWEBを通じてレポートとして報告を兼ねてSNSで拡散した。
- コロナ禍で『お家を楽しむためのコンテンツの充実』を望む声が上がってきたので、どのようなものかを考えていけばいいかアンケートを実施中。

【選定のポイント】

- ・スキルアップ講座の受講者が受講して得たスキルを活かしてライターとして収入を得る等「自信をつけスキルを仕事に繋げる」という目的達成に向けた効果が出ている。
- ・ワークショップの意見を反映させて作成した情報マップは好評となり当初の5,000部に2,000部増刷し、店舗の他、上田市内の全幼稚園、保育園等に配布された。

団体名 信州おやこさんぽ（上田市）	事業タイプ	ソフト事業
メールアドレス shinshu oyako@gmail.com	事業費	875,206円
	支援金額	648,000円

アートによる共生社会づくり事業

取組に至る背景・事業の目的

近年、諏訪地域では人口の少子高齢化に伴い子どもの数が激減する中、特別支援学級や養護学校の児童数は増えており、障がいをもつ子どもの割合は増えている。また、高齢化による身体・精神・認知の障がいを後天的に得る人も増えており、地域全体で障がいのある人の割合が増加しているといえる。このような状況から、地域を元気にできるかどうかは、障がいのある人とない人が共に豊かに暮らせる共生社会の形成にかかっている。私たちは障がい者の芸術活動であるアールブリュットの場で、地域の人々が障がいの有無を越え一緒に活動し、相互理解を深め、さらに、アート自体が持つ力により、地域全体がエンパワーメントされることを目指した4つの活動を実施した。

事業内容

障がい者アートの力の素晴らしさを、多くの人に伝える活動により、障がいの有無をこえた包括的かつ多様性のある共生社会づくりが推進されることにより、諏訪地域を元気にすることを目的として、以下の事業を行った。

- ① 著名な講師を招いてのアートワーク&セミナー
 - ② 毎月定期的に行う身体表現のワークショップ
 - ③ 作品の常設展
 - ④ 作品のリース事業
- ・アートワーク&セミナー: 7/6、7 延べ84人参加
 - ・身体ワーク: 4月～3月 11回 延べ48人参加
 - ・アート作品常設展: 4月～3月 約1000人が来場
 - ・アート作品リース事業: 4月～3月 延べ33件貸与



【アートワーク&セミナー】

事業効果

7月のセミナーでは、ワークの方法論のみならず、根底にあるエッセンスを経験豊富な講師陣から学び、ワークの中で実践することで、より高度なスキルアップができた。また、参加した子どもたちには、地方では体験できないワークを体験する機会となった。その他、月1回の定期ワークや、常設の作品展、リース事業により、多くの人々に障がい者の作品に触れる機会を提供でき、共生社会づくりが推進した。アート作品の発表の場、制作費用を提供できたことで、今年度は中央の作品展に作品を応募し、入選かつ入賞を果たした方もおられた。大きな成果であったと感じている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

これまで、障がい者アートには①経済的な支援、②発表の場、③制作場所の3つが不可欠だと考え、事業を実施してきたが、2020年2月に作品を制作するアトリエを備えた就労支援事業所を開設することができた。今後は、この事業所を核として、引き続き地域における障がい者アートの支援と共生社会づくりを継続していきたいと考えている。

【選定のポイント】

地域住民が障がい者と一緒にアート活動し、障がい者の芸術文化に触れることにより相互理解が深まり、共生社会づくりが期待される。

団体名	アートで共生社会づくりを目指す会（下諏訪町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0266-55-7213	事業費	902,322円
Mail	info@seeds2008.org	支援金額	721,000円

井戸尻を元気に！ 地域を元気に！ 事業

取組に至る背景・事業の目的

昭和 30 年代から縄文時代遺跡の発掘が本格化したこの地域は、当初から地元民が在野の考古学者の指導や高校生の協力を得て遺跡保存及び維持に関わってきた。この誇らしい歴史を継承し、井戸尻地域を盛り上げていきたいという有志が集まり「井戸尻応援団」を結成した。行政とは異なった住民の柔軟な視点で井戸尻の魅力を様々なイベントとして発信し、考古学に興味のない人にも気軽に参加できる機会を設け井戸尻のファンを増やすきっかけとしたい。同時に活動を通じ、地元住民が井戸尻を地域の宝として再認識するきっかけになる事も期待している。

事業内容

○シンボルマーク活用事業

- ①クリアファイル 200 部作成：イベント参加者等に配布
- ②マグネットステッカー100 部作成：応援団メンバー、考古館職員、役場公用車、その他関連団体等の車に貼ってもらう
- ③アイロンプリントシール 500 マーク作成：イベント参加者、関係機関に配布。複数枚配布し各自Tシャツなどにアイロンでマークを張り付けてもらった。

○イベントPR用チラシ作製 150 部 ポストカード 150 枚

○屋根の葺き替え作業のワークショップ

- ①復元住居屋根の修復事業 ②屋根の葺き替えについて講習会
- ③茅の下ごしらえボランティア 3 回

場所：井戸尻史跡公園復元住居前 講師：堀尾暁彦氏



【屋根の葺き替え作業のワークショップ】

事業効果

- クリアファイルやマグネットステッカー、アイロンプリントシールを配布することによって多くの人の目につく宣伝効果が得られた。自ら使うことに加え、知人家族などに配布することで広がった。
- ポストカードはイベントのお知らせに加え、魅力あるカードにしたことで受け取った人が他の人にも紹介してもらう資料となった。
- 茅葺屋根の葺き替え事業では、茅葺屋根の葺き替え講習会、茅の取り扱い方の実際、葺き替え作業見学により、茅葺屋根についての理解を深め、参加者が葺き替えの初歩的な作業を身に着けることができた。また、作業に参加したり子供たちが屋根に登る機会を作った事で、復元家屋に対する愛着がわき井戸尻を訪れる機会にもつながった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 今年度、シンボルマークを広めるために、アイロンプリントやクリアファイル、マグネットシートなどを制作し普及に努めたが、評価が高かったため、来年以降は販売を視野に入れ会の継続活動のための資金にしたい。(事項：令和2年度にクリアファイル、マグネットシートの販売に加えシンボルマーク入りのマスクを作成販売。マスクは好評で障がい者支援組織に制作をお願いし活動の輪が広がっている。マーク入りのポロシャツも役場職員有志によって広がり好評で職員の多くが着用している。令和2年度はコロナ禍でイベントができず、復元家屋の夜話を撮影、動画配信を試みた。今後は考古館と協力し井戸尻の魅力をネットで配信する事業にも力を入れたい)
- 応援団のメンバーの高齢化に加え固定化しているため、新しいメンバー募集に努めたい。

【選定のポイント】

地域住民が縄文文化を理解する機会を創出し、レンコン掘りや茅葺屋根の葺き替え作業に携わることにより、井戸尻地域に対する愛着を醸成し、住民自らが縄文文化のファンとして情報発信や普及活動を行うことが期待される。

団体名	井戸尻応援団 (富士見町)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	090-5553-2376	事業費	857,761円
HP	http://idojiri.fujimi-kogen.com	支援金額	619,000円
Mail	chiyoko@chiyokoangel.com		

山下町地区多世代交流実践事業

取組に至る背景・事業の目的

平成 29 年度より、元気作り支援金の採択を受け始まった「山下町地区多世代交流実践事業」が 3 期目を終えた。この事業は核家族化の進展により、世代間問わず孤立化している問題解決に向け平成 29 年度からワークショップを開催し地域住民・子育て中の母親・事業所の職員を中心に参加し制度的な理解（地域包括システムとは）から、自分たちが「何ができる？何がしたい？」を具現化するため検討を重ね運営・運用の主体を地域住民と和が家スタッフで共に考えていく「&HOUSE」というチームが生まれた。地域住民（子ども～お年寄りまで）・事業所の利用者、それぞれの役割を担い、お互い様の支えあいの仕組みを、発展させ、住民参加型の多世代交流拠点とすることを目的とした。

事業内容

- ① 地域作りワークショップの開催
（住民と和が家に来られているお年寄り
スタッフを含めた地域作りワークショップの開催）
- ② コミュニティガーデン「あんとガーデン」の完成
（車いすでの移動がスムーズに行えるようにスロープ設置
子どもたちの遊び場となる人工芝、日除け設備、地域住民と
共につくる畑の整備等）
- ③ 毎週水曜日にコミュニティハウスの開放と駄菓子屋の開店
（開放日 39 日 405 名利用）
- ④ 子どもカフェ（あんとの食卓）の開催
（5 月・8 月・1 月・3 月※コロナウイルス感染拡大の為中止）
- ⑤ 住民と &HOUSE 共同のイベントの開催 2 回
（8 月流しそうめん大会・11 月完成お披露目会）



【11 月あんとガーデン完成お披露目会】

事業効果

- ① 継続して地域作りワークショップを行うおことによりメンバー以外の方からも意見を頂けるようになってきた。
- ② あんとガーデンはこれまでの運営運用の中で地域の方々から頂いた意見を取り入れ完成した。11 月にお披露目会の実施。近くにある保育園の子どもたちが散歩の途中で立ち寄ってくれる機会が増え少しずつ地域の拠点となってきている。
- ③④⑤ 毎週水曜日の開放にあわせ、駄菓子屋を開店させたことによりお年寄りの役割ができ子どもたちや地域の方々が足を運んでくれるようになった。あんとの食卓ではメンバー・和が家のお年寄り・地域住民が一体となりそれぞれが役割をもち多世代交流が行われた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- あんとガーデンを開放的で誰がきてもいい OPEN な場所にするために楽しいイベントや多世代で楽しめる活動やアイデアを持ち込み誰もがしやすい居場所にしていく
- できないこと、困っていることを外に開示し常に未完成であり続けることで、できる範囲で関わってくれるひとを継続的に繋げていきたい。
- 子ども食堂（あんとの食卓）は定期開催の他、今後は開催回数の増加を検討していく。

【選定のポイント】

地域の子どもの居場所を高齢者介護施設内に置くとともに、ワークショップを通じて信州子どもカフェとして運用することにより、高齢者と子どもたちとの多世代交流の促進が期待される。

団体名	株式会社 和が家（岡谷市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0266-75-2706	事業費	4,500,000円
		支援金額	3,400,000円

都市農村交流事業「さはら塾」

取組に至る背景・事業の目的

少子高齢化や人口減少の影響を受け、集落の維持が喫緊の課題となっていた山間集落では、移住・定住の推進をこれまでも行ってきたが、地元住民と移住者の価値観や生活スタイルに大きな隔りがあるなど、地域コミュニティ維持のために必ずしもうまくいっているとは言えなかった。

そこで、移住に至るまでの前段階で地区住民との交流を持ち、その上で移住に繋がれば、スムーズに定住に移行できるだろうと考え、当村の山間集落である佐原地区をモデル地区として「さはら塾」を開催した。さはら塾では、佐原地区で普段から行われている行事に都会からの参加者が準備段階から参加し、住民と同じ作業を行うことで地域の人と文化を知り、地域の魅力を押し付けるのではなく、参加者自らが地域を肌で感じてもらう目的で実施した。

事業内容

1 佐原地区納涼祭への参加

佐原地区で毎年お盆に開催している「納涼祭」へ準備の段階から参加。会場づくりや屋台の設置、屋台の売り子など地区住民と同じ役割を担った。

2 どんど焼きへの参加

当地域伝統のどんど焼きへ準備から参加。前日の「おんべ」作りから当日の火付けを行い、佐原地区で栽培したもち米で作った餅をオキで焼き、住民と一緒に無病息災を祈願した。



【どんど焼きへの参加】

事業効果

・納涼祭

東京からの参加者が22名、地元の参加者が60名となり、いつもの年に比べると人数的にも参加が多かったことで、例年よりも盛り上がった。

準備段階から参加者が携わったことで、地元住民に「お客様感」がなくなり、遠慮や隔りが少なく、どちらもスムーズに接することができていた。

地元ケーブルテレビの取材も入り、村内全体にこの活動を周知することができた。

・どんど焼き

東京からの参加者が22名、地元住民が50名参加した。納涼祭への参加者と同じ顔触れも多く、2回目の開催ではより、身近に接することができた。

納涼祭に比べ、佐原地区でも携わる団体が多く、さはら塾自体の地元での認知度が上がった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

地元住民の理解度を深めるために事前打ち合わせを何度も行い、地区にも協力してもらって住民への周知や理解をしてもらうことに苦労した。

回数を重ねるごとに、交流の深みが増していくことを感じたため、今後は住民の負担感を抱かせない程度に回数を重ねていきたい。

3月にもう1度「炭焼き体験」を題材とした交流を行う予定であったが、新型コロナウイルスの流行によって中止となり、事業が一旦ストップしてしまった。

コロナ禍で、どのように交流を続けていくのか、もう一度地元と話し合いを持ち、次年度以降も続けていきたい。

【選定のポイント】

予定人数を上回る参加があり、都市部の参加者に好評であった。また、地元住民の理解や期待度が高まり、地区の会議等で次年度のアイデアが話し合われるようになった。他地域のモデルとなるような取組であり、つながり人口づくりや移住定住の促進が期待される。

団体名 豊丘村総務課

連絡先 0265-35-9050

メール kikaku@vill.nagano-toyooka.lg.jp

事業タイプ ソフト事業

事業費 498,043円

支援金額 373,000円

木曾ペインティングス事業

取組に至る背景・事業の目的

- 近年「中山道歩き」のブームにより外国人観光客が増加しているが、藪原宿（木祖村）は通過するだけで滞在する場所となっていないというのが現状である。その一因として、藪原宿は平成 27 年の段階で空き家率が 24.4%にまで増加し、放置された空き家が観光客にとって寂れた印象を与えている点が挙げられる。
- そのため、木曾ペインティングスと連携した事業を実施し、藪原宿の 5 軒の空き家を再生する。また招致した作家と共に清掃作業や地域住民への聞き取り等の調査を行いながら作品制作を実施。空き家問題に美術という角度から向き合い、地域の眠る魅力を掘り起こす新しいタイプの展覧会の開催により、藪原宿に多くの観光客を誘致し宿場の活性化を図ることを目的とした。

事業内容

- 美術作家と美術大学生の 26 名が藪原宿の空き家 5 軒の歴史を掘り起こしながら清掃や片付けから始め、家に残された素材等を利用した作品を制作し展示。
- 地域住民対象のワークショップ、木祖小中学校、木曾養護学校の課外授業を 6 回開催。
- 藪原宿と縁のある画家・藤田嗣治に着目し、藤田に扮して鳥居峠から街道を練り歩くフジタパレード・藤田嗣治作品巡りのツアーを開催。
- 地元企業と共同しオリジナルラベルの地酒限定販売。



【オープニングイベント
「フジタパレード」】

事業効果

- 展示会来場者数 7,910 名
- 空き家を展示や市場の会場として活用した事で地域住民は懐かしみ文化伝承に貢献してくれ、他地域からの観客は作品と共に藪原宿特有の建築様式にも触れる機会となり反響が大きかった。空き家の活用モデルとして提示することができた。
- 世界で活躍する国内外の美術作家が地域の小中学校の授業を受け持つ事で広い視野を育み、またイギリスやメキシコとの国際交流により子供たちの好奇心を大きく刺激した。
- 地域の文化財発掘と紹介として開催した藤田嗣治作品巡りの反響は大きく、参加者と共に全国からの問合せも多数あり、展覧会や各イベントではアート、クラフト、グルメ等様々な分野や目的を持つ人々の集客ができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 美術作家の視点で捉えた地域の課題をテーマとした展覧会と、地域住民を対象としたワークショップ開催の継続。
- 子供たちの視野を広げ柔軟な思考を持って社会を生き抜く力を身に付けてもらうため、教育委員会等と連携し一線で活躍する美術作家が木曾地域の子供達を対象に定期的に授業を行う機会づくり。
- 日曜画家を謳う木祖村を画家の村とし芸術文化を根付かせ、国内・国外から美術作家や学生が集い地域交流を深め、文化発信の場となるような拠点づくり。

【選定のポイント】

知名度も年々上昇し、予想以上の集客を得られたことは大きな成果である。今後は事業を通じて培われた地域内でのつながりや様々な人々とのネットワークを最大限活用して、地域を代表するイベントかつ交流のプラットフォームとして発展していくことを期待する。

団体名 木祖村	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 0264-36-2001	事業費	1,339,310円
ホームページ https://www.kisopaintings.com/	支援金額	1,047,000円
メールアドレス kisopaintings@gmail.com		

松本地域の異業種連携事業「ゆかたキャンペーン」2019

取組に至る背景・事業の目的

松本城を中心に栄える松本において、「着物」の似合うまちとして、日本の伝統美である「ゆかた」をテーマとしたイベント等を開催する「ゆかたキャンペーン」を実施した（第6回目）。老若男女がゆかたを着てまちに出かけることを啓発し、キャンペーン参加店舗は、ゆかた着用の来店者に各店舗独自のサービスを提供するほか、オープニングイベントとして、ゆかたを着用した盆踊り大会やゆかたコンテストを開催した。松本地域の異業種が連携してキャンペーン事業に取り組むとともに、地域住民や外国人を含む観光客が主体となったイベントを開催することで、まち全体として、城下町松本の風情を活かした地域振興や賑わい創出に取り組んでいく。

事業内容

- ・ゆかたキャンペーンの開催（7/15～8/16）
- ・盆踊り大会、ゆかたコンテストの開催（7/15）
- ・外国語版（英語、中国語）ポスター、チラシの作成・配布（ポスター500枚、チラシ10,000枚）
- ・参加店舗の募集（参加店舗73店舗）
- ・ゆかた着付け講習会の開催
- ・「松本ぼんぼん」でのゆかた着くずれ直しの実施
- ・ゆかたキャンペーン広報の実施（新聞掲載、ラジオ宣伝、チラシ配布）



【盆踊り大会】

事業効果

- ・外国語版チラシの作成・配布やオープニングイベントでの人力車やゆかた着用体験を実施することで、外国人観光客にも大変好評を得ることができた。
- ・事業の継続実施によりキャンペーンの認知が深まったことで、前回よりも参加店舗が増加した。また、実行委員会が直接店舗に伺い協賛の依頼をすることで、キャンペーンに対する理解や賛同が深まった。
- ・イベントにあわせて、信州の観光冊子の配布や地元グルメ（山賊焼き）の提供により、観光振興や信州まつもと空港の利用促進のPRにつながった。
- ・事業の主旨である日本の伝統美をテーマにした住民主体の観光イベントとして、ゆかたキャンペーンの認知度の向上やイベントの定着が見られる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・実行委員会が各店舗に事業の主旨を説明することで、有料にも関わらず協賛店舗が増加した。今後も、個々店舗への説明を継続し、宣伝効果の拡大や協賛店舗の増加を図る。
- ・「ゆかた」をテーマに連携してきた地域の団体や高校等との関係を継続し、学生の参画やインバウンドに対応した企画を立案することで、滞在型の観光振興につなげていく。
- ・観光振興における駅前での賑わい創出を重視し、松本駅前から松本城に続く商店街の理解を深め、賛同者を増やすことで、松本地域の賑わい創出事業として「ゆかたキャンペーン」の定着を図る。

【選定のポイント】

城下町松本の風情を演出する特色を活かした活動であるとともに、企業参加費による自主財源の確保を図るなど、継続的な事業の実施や地域活性化につながる活動として評価できる。

団体名	ゆかたキャンペーン実行委員会（松本市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0263-26-3850	事業費	1,983,620円
ホームページ		支援金額	1,549,000円
http://nagano.perma.jp/event/chushinsibu_yukata/index.html			